WASON
Apr. 1899
no. 485

明治三十二年四月十日

女學雜誌

第四百八拾五號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百八十五號目次

◎社說

笑ふべき內地雜居の準備
下婢養成所成立の好時機
女大學

◎講義

謙遜の社會に及ぼす現象
緒言○消極事業○謙遜私解○系統盛衰○人物輩出○泉山の家庭○律則常見○結辭

◎家庭

花園隨筆
兒童の心理研究に就て男女特性發見法
男兒の早く好くはなし
幼時に於る衣食住の程度
兒童に對する命令と奬勵
親孝行は子孝行より起る
近松女氣質　櫻井鷗村
（其四）堀川波の鼓のお種

◎雜錄

鬼面百相（三）　青柳有美

◎大磯だより

長城居士の臨終（如雲）

◎時事

評判錄（有美）

◎片々

◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す

◎十日發行の分は稍や平易實際の記事を專にし、第一、家庭の整理改善に益あるべき事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學宗教及び教育等に對する吾儕の卑見を陳述し、大に世上君子に問はんとすることを旨とす。

◎單に十日發行の分のみ又は廿五日發行の分のみを指定して所望せらるゝものあらば其の需めに應ずべし

●女學雜誌定價表●

前金		
壹冊定價	拾錢	（內國無郵稅）
半年分定價	壹圓拾錢	
一年分定價	貳圓	

◎代金は總て前金にて御注文ありたし
◎年來引續購讀の諸君にて前金切れ候共御斷無之間は引續き發送するとも可有之事
◎但し其節は總て一册十錢の割にて計算し追て請求可致事

廣告料		
一行（廿七字詰）一回		前金拾錢
同	三回以上	一割引
同	六回以上	二割引

送金　送金は東京駒込郵便支局に宛て小爲替にせられたし○郵便切手にて送らるゝ人は總べて一割增にて計算せられたし

明治三十二年四月九日印刷
明治三十二年四月十日發行
發行兼編輯人　巖本善治
印刷人　布川孫市
東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場（電話本局十九番）

巖本善治編

海舟餘波

一冊三十錢
郵稅四錢
郵券代用
三十七錢

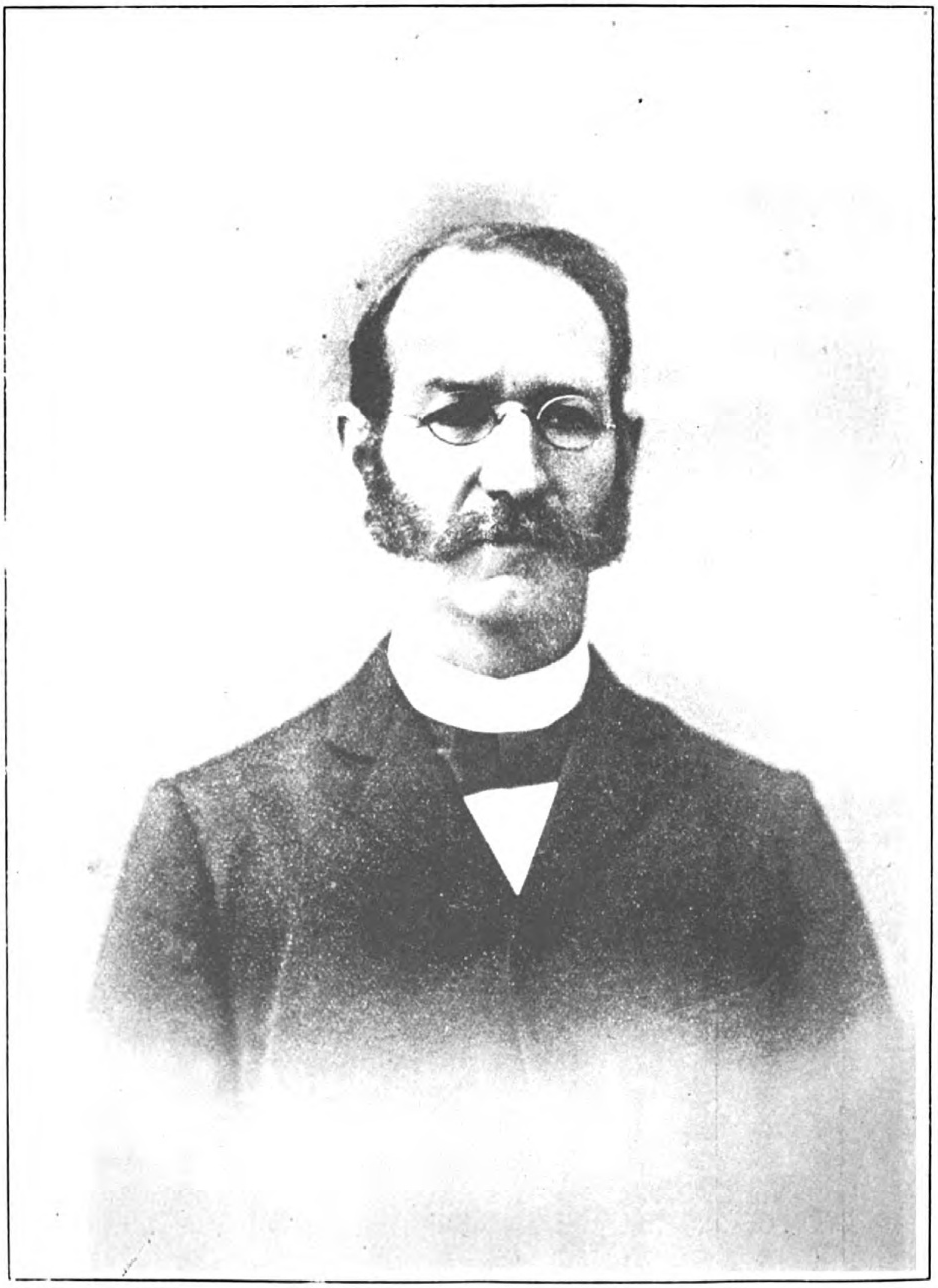
海舟先生在世の日、編者毎週其門に趨りて清話を聽き、歸つて直ちに筆記し、一々其眞面目を書留めたる者、今殆んど堆を成せり。蓋し世上大率ね幕臣の勝安房守を傳えて、偏に其舊功を贊す、素より是れ可ならざるに非すと雖も、先生苦心の存する所、寧ろ其幕府明渡しにあらすして、反て明治新政府の維持建設にあり。但夫れ先生能く形跡を沒し、功名を讓り、巧に韜晦して擾々の評を避くるの故に、當代多く之を知さる耳。今や先生一去して亦之を秘するの要なし。此書、主として此般の消息を傳ふ。坊間既に一二の著書あり。略ほ其梗概を言へる者の如きは、此書皆省き、凡そ先生の事業言論にして未曾て世に出てず、未曾て世の思到せざる者を輯收す。悉皆編者親しく聞く所にして、毫も他子の文を加へさる也。又別に先生の寫眞を添ゆ。是れ最近の撮影に係り、コロタイプにて製作す、銅版鉛版をもて比す可らす。眞采歷々、光姿烟として面あたり接するが如し。

又先生終辭の文稿一篇を寫眞版に附し併て添ゆ。是昔し山岡鐵舟長逝するの日、先生自ら偈を作て弔する者、其辭悲痛、達人知己を惜むの情、流露澎湃す。今ま斧削の痕點々觀るべく、眞に一代の珍なり。又康有爲に與ふるの書、及び金貨本位制に對する建白文の如き、眞に先生平常の苦心滲濟たるものを見るべし、併て附錄とす。如今版成り正に發賣す。同好の士希くは一讀を賜へ。

東京巢鴨庚申塚　女學雜誌社
發賣元　東京市神田區表神保町　東京堂

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌

明治三十二年
四月十日發兌

第四百八拾五號

社説

笑ふべき内地雜居の準備

初め脱兎の如く、後、處女の如く、初、仰山にして、後、枯草の如く、天裂け地崩れて鼠一疋飛出すは、我國の輿論、從來の流行なり。

條約改正の是非切りに議論せらるる比ほひには、西洋人を津々浦々に雜居せしむるの利害如何など、八釜しき題目なりき。去年迄も、其の來るそ潮の推し寄するが如くならんと想像せしが、本年に入りて彌よ當七月と覺悟するに及んでは、サスがに少しく現實に切つて、大したることなしと心付き初めしぞ笑止なれ。

飜へつて、二三年前來の雜居準備なるものを考ふるに、今更の事ならねど、例の如く抱腹の談多し。近頃すら、裁判所に、好通辯を置んとするの議ありと云ふ。信切に似て一笑すべく、周密に似て、事理を辨まへざることと云ふべし。日本人の爲に辯護士を養成せざる政府は、外國人の爲めにも特更ら掛念するに及ばず。需要あれば供給あり。外國人もし裁判所に好通辯を切要せば、彼等は其の黄金をもつて勝手に雇ふべし。固より預かじめ政府の心配すべきことにあらず。

其の小さきことに就て言はば、便所の改築より、花見の取締に至る迄、すべて雜居の準備なりといへり。宛がら、貧乏人が大家の客を歡迎するに彷彿たり。掛念の懇篤なるは、誇りなる乎、非か。用意の周密なるは、雅量たるや、否や。少こしく疑ひあり。

夫れ、内地雜居を氣構へて、地價を上げ、内地雜居を當にして、株券を買ふものなどの目途、過半失敗に歸し、憫れむべき違算に陷いらんことも多少は免れがたし。買冠りたる西洋人

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に持逃げ、食逃げせられ、議員は買收せられ、會社に内輪割を喫のかさるゝなど、忌々しきことも多少は流行すべし。一失一得、豈に逃るべけんや。素より、驚ろくべきことにあらずと雖ども、茲に別に一事の注意を促がすものあり。事、家庭に關する多きの故に、預かじめ讀者の警戒を惹かん。

蓋し、外國人雜居するの地方に於て、婦女子の爲に一喜一憂あり。其の喜こぶべきは、之が爲めに、男女交際の道を開き、一夫一婦の制を嚴そかにし、女子の地位を安全にし、其の敎育を廣ろくするの感化あらんとすること也。但だもし此の慶事行はるゝことなき程の場合には、勢ひ其の正反對に出で、女はラシヤメンとなり、外妾となり、醜業婦となり、其の待遇の優渥にして、其給金の高額なると、其の衣食の文明なると、其の交際の面白きとにより、相率ひて夷狄の玩弄物たらんと欲す。これ豈に日本女徳の大恥辱にあらずや。

夫れ、此の一喜一憂の岐るゝ所は、來るべき外國人の品の上等なると下等なるとにあり。之に對する制裁の嚴なると寛なると、巧みなると鈍ましきとによる。而して、此の分岐を支配するの權力は、過半、日本人の掌中に存す。何んぞ、安閑

として彼等の勝手に放任せんや。もし雜居の準備なるものありとせば、即はち此般の事こそ、其の最とも宜きものゝ一つなるべけれ。

日本は小國なり、物産も亦小さし、茲に外國の巨商を招かんとは難し。然し乍ら、其風景は、天下第一を以て稱するに足る。海外の貴賓上客を招く、豈に道なしとせんや。

況んや、其の物産は少なしとも、其の港灣は多し。若し日本の物産をもて貿易せず、亞細亞の貿易をもて任じなば、西洋の巨族豪人を招く、豈に望なしとせんや。

且つ夫れ、日本上流の名家、貴紳にして、歡こんで外來の上賓と交はり、懇ごろに旅人を遇することあらば、海外十方の客を招くに、必らずや効あり。而して、此等上品の外客頻々として來往するにつれて、彼の不埒、不品行なる雜居外人を其交際社會より逐出し、其の班に列席すること能はざらしめば、利を見るに慧、交を求むるに切なる彼輩も遂に閉口し、切めては僞善者、僞君子位とはなり、其品行に用心するに至らん也。彼輩を制する、此般の毒藥の外ある可らず。

而して、憫れむべき日本現今の紳商なるものも、其の見榮坊

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

の氣前よりして、少しくは、蓄妾の弊風を隱くすに至らん。今の蓄妾も一種の見榮の爲め也。後の隱すことも亦た虛飾の爲なりとするも、寧しろ、後の虛飾の益あるに若かず。

左れば、我國をして、外國人の爲めの一種の旅店たらしめ、旅の恥をかき棄にするの横着をもて、勝手氣儘に放蕩せしめ、我日本の母、我日本の姉妹を玩弄物にして、彼等が不埒なる遊興の器械たらしむるか。もしくは、之を取締りて其の假裝文明の面を脫せしめず、之を利用して我國の益となさんか否やは、一に我國志士準備の手加減に存す。內地雜居の準備に笑ふべきこと多し。其多くは、小國根性の見榮坊と、餘計のお世話とに出でざるはなし。但だ此の一事の如きは、斷じて其の類亞にあらざる可し。

我朝の禮に女は酒を不飮と云ふとあり。其由來は知られども、玉葉治承四年七月十九日、己巳天晴、此日姬君着袴也、御前物（臺六本、盤二枚）依二姬君一不レ供二酒盞一也。玉葉承元三年三月廿三日、此日故攝政前大政大臣長女有二入宮事一、次供……不レ供如何、但我朝禮女必不レ飮レ酒仍不二更催一三位下居向レ盞食レ之とあり。此等の記文を據にて婚禮にも女の前には酒盞に酒を入ざるを故實とす。

下婢養成所成立の好時機

近日、新聞紙の傳ふる所によれば、有志の婦人協力して、帝國婦人協會と云ふを起し、種々の計畫ある中に就き、下婢養成の一事業にも着手せんとするよしに聞く。而して、此の協會に付きては、其未だ創立せざるに際して既に早く彼此の批判を爲すものもありと雖ども、他の事は暫らく措き、下婢養成の一事に至ては、目下緊要の事業にして、而も其成立正さに疑ひなきの時機到來し、只但だ適宜恰好の當局者其人あらんことをのみ待つの現狀たるとは、識者を要めて初めて承知するの問題にはあらず。

從來、我國の下女奉公は、女子の職業にあらずして、教育にてありき。即はち、相當の家庭を撰びて奉公し、其の家風に慣れ、其仕込を受け、可云ゆる鹽蹈みなる者を經て、他日一家の主婦たらんとする修業の目的にてありし也。中には、無論、職業の主意を旨として只だ給金を目あてとせしものも少なからず之れ有りしとなれども、此は是れ下女奉公の變道にして、其の理想とする所にはあらざりき。此を以て、主從の

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

關係は、教師徒弟の關係となり、雇ひ雇はれと云はんよりも、寧ろ一家の寄留となりて、其家の子、女郎黨たるべき性質多かりければ、給金の多少を論じ、職業としての損益を比較する如き思ひはあらざりし也。たとひよし之ありとするも、之を口に公言するは恥かしきことゝなり居たりし也。

然るに、君臣の舊情誼破れ、家門眷族の風習一變し、藩閥地方の特色廢れて、何事も郡縣制度、中央集權の餘弊に流れ、日本家庭の趣むき、大に變化せしより此の方、下女奉公なるもの、意味も隨がつて革たまり、單に女子の職業として目ざるゝに過ぎずなりぬ。

况んや、各地に製造所勃興し、女工を要すること夥たゞしく、女の賃銀は驚ろくべきほどに騰貴せしかば、元は躾と云ふことを觀念して給金の方には目を掛けざることゝ成り居たる下女奉公に依然として安んずるものは少なく、相率ゐて、女工場の需めに應ぜんとせり。故に、製造場いよ〳〵隆盛にして、下女彌よ拂底となり、工塲の煙突、煙を吐くこと高きにつれて、戸々の竈は彌よ窮するに至りき。製造場と、臺所とは、つねに反比例を爲すの割合なり。

四

つら〳〵思ふに、賃銀としては、下女の給金や太はだ廉なり。拂曉、晩夜、一家細大の用事に追つかはれ、時間のキマり、休日の定めと云ふものも殆んど無くして、而して、其收得は、規則正しく、餘暇多き、製造所の女工の手に入る半額だに及かず。今日、經濟の事に掛念すること多き族にして、下女奉公を好まざるは、當然ならずや。

數年前來、下女の不足、下女の不良に對する困却の談話は、聞くに厭きたるほどなり。之れ然し乍ら、主婦として之を使雇する人の不束なるにもよれり。能く下女を使ふの道を知れる主婦は太はだ少なし。而して單に下女をのみ責めんとするは、酷にあらずや。吾人は曾て論じて言へり、下女不足の嘆息いよ〳〵高まりて而して後ち下女の改良あり。下女の改良ありて而して後ち主婦の執事一變すべし。下女改良の事の家庭に及ぼす影響甚大なりと。

今や、下女に對する、不足、不滿の聲、絶頂に達せり。此の時や、適宜に下女を教育して、其資格を高め、其賃銀を增し、以て一般無教育の下女と別ならしめて、彌よ下女教育の効能を維持し且つ伸張するに恰好の時機なり。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夫れ、下女は、主婦の爲の秘書官たり。下女にして若し良善に且つ技倆あらば、今の主婦の執務は、其の三分の二を減ずべし。主婦にして其の餘裕を得ば、一面には其の學を增し、一面には其交際を增し、一面には其の內助の功力を增すべし。及ぼす所の影響、豈に少なりとせんや。

嗚呼、下女養成の事業は、今や斯の如く緊要に、且つ如此く適當の事業たり。むかし、慶安老と云ふものありて、親切に彼等の口入世話を爲せしが、今や文明一新の慶安老其人ありて、彼等の爲めに有力なる保證と、堅固なる監督とを爲さゞる可らず。此等の事業成立の好時機や到來せり、希はくは、切に適當の人を得て、其の初步の着手に蹉跌あるとなからしめん。

◎婚姻の酒には、柳樽と云ふは、歌に、
見渡せば柳さくらをこきまぜて都ぞ花のにしきなりける
とよめるに本づき、こきまぜての詞面白ければ、柳樽櫻鯛と取結びたる也

◎金龍山觀音閣に額あり

實相非莊嚴　金碧裝成安樂刹
眞身絕表象　雲霞藹出補陀山

又歌に
心だに誠の道にかなひなば祈らずさても神や守らん
其返しに
我心まことの道にかなひつつ祈らば猶も神や守らん

女大學

昔し貝原益軒、女大學を著はす、所說の可否今にして固より論ありと雖ども、當時、大學と言へば只だ男子の爲にのみ言ひて、未だ曾て女子の爲めに念じ及ぼさゞりしの日に方り、突然破叫して、女大學と言ひけん折の、如何に斬新に、如何に痛快に、倘且つ如何に女性の爲の感謝なりけん。

而も、本來の大學は、講じて言はく、

大學之道、在レ明ニ明德一、在レ新レ民、在レ止ニ於至善一

其の言、何んぞ高尙、何んぞ幽玄なるや。之を益軒が只だ女の爲に言ふものに比べては、天地霄壤の差も啻ならず。

明治維新に入りてよりは、先づ女權を殺ぐをもて改革第一の着手となしき。謹厚なる吉井弘介等が宮女に宣言せし所は、即はち之れなり。

爾後、西國文明の輸入に隨がつて機一轉し、女權、女學の爲に言ふもの次第に開進せしが、近年に至つて、更に、二樣の叫びあり。一を大坂に於ける女子大學設立の宣言とす。二を近日、時事新報紙上に於ける女大學評論の廣告とす。

凡そ此の二者の言ふ所、其聲の其實に過ぐるものあり、其の實も亦た男子の大學に匹敵すべきにあらざるは論なしと雖ども、抑そも如今區々、拘々たる婦人論横行の時に當つて、忽ち破叫して、女大學の語を宣言するものあるは、如何に痛快に、如何に祝福なるや。吾人はたゞ其の聲をすら聞くことを樂しむもの也。

もし夫れ、當年の女權論者貝原益軒を指ざして、今ま婦女の敵となすと等しく、今の女大學を宣言する女權論者を指さし、他日、また之を迂なりとするとあらんは、寧ろ可ならずや。蓋し、大學には、男女の別を言ふ可らず。男女、同もに人として一様に、入り、一様に守り、一様に行ふべきの地なり。之を大學の主旨、及び理想とす。悲しい哉、女大學の進歩大いに後れ、遠く男學に及ばず。殊更らに女子の爲に大學の必要なる所以を主張して、而して辛うじて之を得んと欲す。豈に亦た晩からずや。

左れば思へ。女子の爲に大學を希望するの眞主意は、遂に女子の爲に殊更なる大學を言はざるにあり。女大學なきの時や、即はち眞との大學あるの日なり。

講義

謙遜の社會に及ぼす現象

九六生

本論新約全書路加傳第一章の意義に基く故に若し該一章を并見せらるゝを得ば甚だ幸なり。

○緒言

晩近傳道の蹤漸く現はれ基督教的觀念は少くとも福音著述の二法を以て我邦人心の腦裡に侵染し來りぬ殊に萬國の文運に伴ふて其の共進を受け全く隷屬家畜の域に投棄せられたる女權の輓回と共に女子の智識技能をして男子と并進せしめ又其の責任義務をして男子と對立せしむるに至りしより遂に社會の事業を分擔し來りて是より愈々天地の光榮を見んとするに至れり吾人は此の豫期せざりし產出の收獲に就て上帝に感謝すると共に益々之が發生長育を計り又且つ之が增進革新を講ぜずんばあるべからず素より先覺姉妹の既に取て身に任じ之が實地に施行しつゝある所なれば余の此の言の陳腐に屬して或は諸姉の情緒に迂遠の嫌を抱かしむるあるやも知らざるべからず實に傳道教育と云ひ婚風改革と云ひ若しくは文學術藝と云ひ甚しきに至りては政治法律と云ひ至る所に其翼を揭げ來りて今や全く女子の方面の一轉し來りしを知れり又豈に余の口吻を須ゆるを要せんや然りと雖も余は寧ろ以上の足らざるを感じて猶ほ一言を呈するの微志を存せる者なり。

○消極事業

惟ふに女子の責任甚重く從て其の事業の日に益々多き盡し枚擧に遑あらざるべし然りと雖も之を概別し來れば要するに消極的及び積極的の二種に過ぎざるべし積極的とは何か曰く女子が其の身を投じて天下の事務に當り千難万障を排して忍耐之を維持し叱咤之を成就せしむるにあり赤十字社と云ひ婚風會と云ひ傳道會社と

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

云ふ此の類の者は實に熱涙を濺ぎて姉妹の來れるを歡迎せり消極的とは何か曰く其の冀望の其の身に適せざるを知るか然らずんば其の事業の其の意に合はざるを知るや退て否寧ろ翻て其の冀望と其の事業とをして成就せしむる偉大の人物をして發生養出する事に勉勵するにあり

故に必しも女子の責任は自ら其事業に當るの積極的犧牲に限らず又敢て事業の繼續者否寧ろ其の大成者を出すの消極的獻身も免れざるべし兩者の大小豈に比肩すべけんや要する所は姉妹が其の獻身犧牲を期する品性の如何にあるのみ積極的を以て大なりとし消極的を以て小なりとする者は牝鷄告曉の類なり消極的を以て天下唯一とし積極的を以て冷笑に附する者は井底痴蛙の毀りを免れず事業は上帝の事業にして天職は人類の天職なり品性の高下あり人物の大小あり然れども事業と天職とに至ては豈に大小高下あるべけんや

文運の今日に至らざる以前にありては女權の或は捨てられて地を去る遠からざるにありしも消極的事業に至りては惟ふに遙か偉大の觀を呈せり實に聖書に歷史に昭々として掩ふべからざる事跡を與へぬ而して女權の擴張と共に進步し來りし者は多くは積極的事業に止りて其の消極的事業に至りては時に茫然の感を免れざるなり

○謙遜私解

謙遜なる語は普通に虛禮若しくは僞善に濫用せられしより今日に至りては甚だ復雜の迷ひをなせり少しく謙遜てふ思想を確定して本論に入らんとす惟ふに謙遜なる德は自ら覺らざるの時間にして若し一たび其の人が已の心に其の考への謙遜なりしことを知りたる瞬間ありとせば其時正に其の德の癈滅せられし者と云ふべし故に人は驕慢及び謙遜の兩極に立たざるも其の心にささりし中間に立つことあり素より高ぶれる間は正しく驕慢の極に立てるを以て正反對なりしことを知ると雖も世間には多く其中間にありて自ら謙遜の德を立てりと甘ずる人あり甚しきに至りては其の自ら能ふことも知りしことも自覺せしに拘はらず僞りて能はずと云ひ知らずと云はゞ心靈的謙遜の德に算入せらるゝ者さへあるを見るべし現今我邦に於て普通に用ゆる所の謙遜てふ思想は多く此の種類の僞善を以て滿足する者の如し謙遜なる美德は豈に斯る虛言を以て買收し得べき者ならんや斷言すれば謙遜なる德は「我は天下の最も小なる者なり」てふ觀念の眞面目に存在せる時間にあり故に若し常に此の觀念の揮發せざる時か若しくは常に之を呼吸せる間にありては實に其の品性の一格を領せし者と知るべし

○系統盛衰

嗚呼人世の行路期すべからず多くは是れ塞翁の馬なるか艱難平易交々來り盛衰浮沈時あつて轉ず動力の最も機敏にして瞬間千里の電光も波浪の曲路を免れず吾人一年に種々の境遇を閱し一生に數多の運命を荷ふべし之を引長しては累代の浮沈となり之を短縮しては一日の喜憂となる又之を大にしては一國の興廢となり之を小にしては一家の盛衰となるべし夫れ國家主義は個人的に立つべきか將た社會的に立つべきかは須更らく本論の外に置き玆に考ふる所は一家の系統に關して其盛衰浮沈の如何を見んと欲するにあり

肉躰上よりして之を見る時は吾人は常に一方自然的に遺傳類似の系統を踏むと共に他方人工的に改良陶汰の發達を得ることを知れり即ち祖先は神より清潔無垢の血肉を受けたりしも罪の結果として遂に毒性汚血を遺流し來りて彼の「父の罪を子に酬いて三四代に及ぼす」てふ法律の下に吾人を縛し來りて多少祖先の恥辱を負はしめぬ此れ醫學上の定說なり然れども若し又學術技藝の進步と共に又吾人の德性を研磨して眞にパラダイスに遊しむるの高潔に達せしむるを得ば再びアダムエバの現世に及ばざるにしもあらざるべし

靈精上より之を見るも吾人は又常に一方天造的に先天後天の思想を繼承すると共に他方人爲的に警戒矯正の改革を成功せしむることを知る者なり即ち勉勵は幸福を生み幸福は慢心を生み慢心は怠惰を生み怠惰は凶運を生み凶運は省悟を生み省悟は勉勵を生み勉勵は再び幸福を生むに至るべし此の間にありて上帝は常に獎勵懲罰の大權を左右して人類の盛衰浮沈を統治し給ひぬ

「人は靈と肉とに依りて生れり」而して創造以來人命は靈と肉とに始りて其の時代に至るまで靈肉合躰的の生活を經過せざるべからず此の如くにして吾人は又眞理も共に肉躰靈精の合一することを見る例へは肉躰上よりして人は人種の改良を得る

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

さ共に靈精上よりして人は思想の聖洗を得る者なり故に若し吾人が社會に大改革者を要するの時あらんか然らば之を人爲的に產出せしむるを得べし即ち思想より肉体に及ぼし肉体より胎兒に及ぼし胎兒は人物さなりて社會に立つの時社會は之が爲めに一轉するの曉天に達すべし

◯人物出產

計圖は須叟らく大ならざるべからず而して其大なるにもせよ小なるにもせよ事業は天下の事業にして一人一己の事業にあらず又素より一人一巳の成就し得べき者にもあらざるなり其成るに至るまでは幾多の英雄を呼び又幾多の人傑を迎ふ品格は須叟らく高からざるべからず而して其高きにもせよ卑きにもせよ人物は天下の人物にして一國一家の人物にあらず又素より一國一家の專有し得べき者にもあらざるなり其の起つに至りては天下の幸福さなるにあらずんば將に天下の厄難たるべきにあり

夫れ然り而して事業は實に一人の肩腕に依らずさ雖も萬衆を帥ゆる偉大の人物を要するとは堂々たる眞理なり然らば其要求さ任路に對する偉大の人物は何れに起らんさするか姉妹は或は曰はん家庭教育さ誠に然らん又或は曰はん學校教育さ是れ亦然るべし猶ほ又曰はん社會教育もありさ素より然らん然りさ雖も余輩は猶ほ一種の大原因の其他に存して動かすべからざる者の存せるとを思へり斷言すれば胎內教育さ云はんか寧ろ進んで女子の消極的事業さは云はんめれ

一家の盛衰は其源因に遡りて多少の例外及び條件の存するあるより一定の立論に委任すべからずさ雖も之を概するに「長者三代」「學者の子に學者なし」てふ俚諺の眞理を占むる所以の者あり是れ實に本論の立脚點なり蓋し子は親の復酬を任ずべきか然らずんば親に代はりて其の仇敵を引受くるの位置に運命せらるゝが如し即ち親負けなば子勝ち子の負くるは親の勝ちたるに歸因せる因果應報の常理に支配せらるゝにあり今識者姉妹は復酬若しくは仇敵てふ斯々る不潔の語言によりて嫌厭の情を惹起して論旨を不潔なる者さ斷定する勿れ試みに思へ世上の變動は縱令强食弱肉の域に至らずさ雖も常に盛衰を同うせざる競爭場裡に社會の統治せらるゝとを然らば父勝ち子勝ち曾孫又共に勝つは殆んど得て望むべからざるを蓋し甚だ勢力ある論定にあらざるなきか之れを家系の盛衰に考へて其源因を探らんさ欲す

吾人は運命攝理てふ大王國の域土にありて而かも自由意思の駟馬に鞭うちつゝ社會の馳場を走れり吾人が意力の及ばざる現象に對しては命運攝理の下さに屈服せざるべからず然れども吾人は徒に說明なくして命運さ云ひ又且つ思慮なくして攝理さ稱するとを好まず彼の四海を擧げて豫定說に投入したる或る種々の論者は之を外に立て吾人は暫時家系盛衰に關する一二の要件を考へんさ欲す

人は驕慢的滿足によりて衰退の端緖を開ける者の如し例へば或る位置に滿足して高ぶれる人に既に上昇的勢力を止めたるのみならず却て下降的進路に其身を墮落せり或は又其の技能に傲りて小天地に慢逸したる人は狹隘に萎縮して笑ふべき退歩に慾望を消滅するが如し即ち是れ心靈上に崩せる慢逸の原因が其の人の現世に結果せずさ雖も引て子孫に至りて收獲せらるゝに及ぶ應報を奏すべし故に富者は其の資產を他人に癈棄する所の子孫を產出し學者は一丁一字を止むる能はざる所謂不肖無學の士か然らずんば發狂性若しくは放蕩質の繼續者を製造して悲しむべき反動顯象を呈出する者なり此の如くにして父祖は資產學識事業榮譽の點に於て社會に勝ち子孫は又資產學識事業榮譽の點に於て社會に敗軍をなせり此の下降的變遷の結果は實に遠く慢心的滿足に於て胚胎妊孕せられし原因に歸するも夫れ將た何かあらんや

之に反して謙遜的不滿足は進步の原動を開發せる者の如し文盲學者を生み乞食長者を出す等の事洋の東西さ時の古今さを一貫したる實事にあらざるか苟くも天下の豪傑さ云ひ社會の人物さ呼べる者は常に其の多くは資產學識權勢榮譽の出產にあらずして寧ろ天下の最も小なる者の家に起れり其の天下の最も小なる者は則ち資產學識權勢榮譽の戰に於て敗軍を告げたる人にてありき素より二三の例外あるを免れず又素より家庭學校境遇等の敎育の之に係はらざる無きを保し難し然れども此等偉大の種子は心靈的謙遜の母體を以て重大なる原因さなすとに躊躇せざる者なり「我心主を崇め我靈は我が救主なる神を喜ぶ是れその使女の卑微をも眷顧たまふが故なり」(路加一章四十六、四十七、四十八節)てふ自白せるマリヤの謙遜なる品性は如何遂に神の子キリストの母たるに至らずや吾人は實に「昔も今もな

八

き洗禮のヨハネ」を見る毎にザカリヤの妻エリサベツの敬虔なる心事をぞ仰ぎける此の如くにして上帝は謙め偉人豪傑をして人類の間に附與せらるゝに當て驕慢自尊の人に寄らずして「ナザレの村に何の好き者出でんや」てふ人より卑められ又傷く自ら遜りくだれる大工若しくは税吏の類を用ゐられたる事を記せざるべからず

○象山家庭

試みに佐久間象山の家庭を述べんとす其の父一學氏來りて松代藩に近習し食祿奉職の點より云はゞ寧ろ末流の人なりき其の前妻は大鋒院の女なりしも故ありて離婚し後妾一農家の女を入れて閨室とせり農家の女なれば素より教育なく日蓮迷信の愚婦其の膽の豪大なる故か事物に驚かざるの風あり強いて其の美點を探らんと欲すればソクラチースにはあらねども教育なく學識なき愚婦たるを深く心に確認して又自白憚らざるにあり一學氏易學に通じ槍術に長ぜり賦性磊落又頗る敬神家と聞く當時邊境喧しく藩中又人なきを思ひて聊か心に打たるゝ所あり一學氏夫婦は玆に至りて思を定め彼の明け暮れの明星に向ひ二人相共に心を併せて祈りにき曰く「非常なる人物を與へ給へ我が夫婦の如き者にあらずして學術を備へしめ給へ」と遂にして孕めるあり月至れは女子なり彼の明星一に啓星と稱するより頓て其の名を負はせて啓子と呼べり

啓子成長して北山氏に嫁し一女一男を擧ぐ早く其の夫に別れ爾來閨節卒めず其の男安正の教育に從事しけり啓子夙に天文學に通じ理學算學を兼脩せり和漢文學之に叶ひ裁縫機織張飾彈等に至るまで盡し婦人の技能擧げて漏すなし余幼少郷里にありし頃江戸出來の離張りを賞するに「北山製の如し」と云へるを聞けり啓子且つて譲文墨帖より法華經の全文を摘集し來りて更に綸子の模様に織出せりと又以て其の人の文學技術の幾分を知るに足るなり「烏なき里の蝙蝠」と云はゝ云へ然らば天下に聰明容達の士あらざるべし品性の詳細に渉りては之を批評の外に置き吾人は先づ時代と境遇とを考へて賢明の冠を送らんとす

却て說く兩親は女子啓子を產出して止む能はず盡し初志の遂げられざるに依れり則ち再び思を凝して四十日四十夜の祈願をぞ繰返しける曰く「非常賢明なる男子を與へよ我等夫婦の如き暗劣國家の大計に當るべからず」と然らにして又第二の懷姙あり生れて男子祝して啓之助と名ず實に安政慶應の間にありて好んで國歩の艱難に當り喜んで一身を提げて天下の大計に捧げたる佐久間象山其人なり字は子明大星と號する者皆共に明星の紀念なりと云ふ

象山蘭英佛獨羅甸の語文に曉通し理化兵法政治法律より醫學に至るまで之を歐文に闡發し之を實地に應用し和漢文學當時比なく織維書籍音樂式典又皆各々一門の專職者を凌げり博聞治說万世を卓觀し世界を統見し來りて立論明確計圖遠大、政治家の如く兵法家の如く教育家の如く改革家の如く又實に眞個の大預言者たりき

○律則管見

此の大なる人物は無學なる愚婦及び敬虔なる貧士の所願によりて產出せられたるを知るべし象山の易學槍術に至りては全く家庭の賜物なり然れども謙遜なる一學の眼中には半文の價を爲さゞりき好し其の術に長ぜしを知りしとせんも其の器の小なるを知りしは彼の中心點なりき

余は彼の啓星が如何に輝くと雖も人類の祈願を聞き入るべき者にあらざるを知れり又迷信と愚願と雖も之を天聞に達し得べき者と主張するにもあらざるなり然れども一學夫婦の敬虔なる所業と謙遜なる祈願が卓見なる象山を產みたるの結果に照して全く之を考案の外に投ずるを欲せざる者なり否寧ろ余輩は種々なる要件を追求し來りて喜ぶ所多し請ふ少しく開け

一、上帝の大なるを知り來りて其の身の小なるを感ぜし時玆に眞個の謙遜と敬虔とを生ずべし

二、眞個の謙遜と敬虔とに至りてこそ始めて熱誠確實の祈願をぞ捧ぐるに至るべけれ

三、福音を受けざる時代にありては智識の程度に準じて相應の位置に神の座位を想像すべし一學の啓星を拜せしは啓星其の物を神としたるにあらずして假りに神の宮と想像したるにあり

四、默示を與へざる國民に對して上帝は本心の信仰を參酌して其の祈願を容れらるゝとあり一學一人に限らず史上に於て吾人は此等多くの實例を見たり

五、謙遜なる思想さ敬虔なる信仰に出でずんば基督の名に寄ろさ雖も其所願は無益に屬するとを知るべし

六、天下の要する偉大の人物は上帝の此の世に下せる特寵なり而して上帝は謙遜敬虔なる器物を用ゐて其の聖旨を見はさるゝと多し基督の所生に至ては實に極端なる適例なり

七、驕慢なる人には恥辱を負はしむる子孫を與ふるとあり「學者の子に學者なし」「長者三代」てふ俚諺は確實なる證據さすべし

誰か吉田寅次郎の傳を讀んで泣かざる者やある教育家さして改革家さして至誠天地を動し熱涙國家を救ひし多血の士、好し小塚原刑場の露さ消えしかど今は須加茂の松陰神社さ祭られて天下有志の詣づる所さなりぬ然れども吾人は其の源に遡りて長州萩城の東郷松下邑に行かざるべからず五十有餘年の昔此地護國山の南麓にありて一人の敬神家杉百合之助氏さ云へる人ぞ住みにけり松陰の母なる人素より教育の法を得たりしさ聞けり然りさ雖も先つ家庭教育は第二の原因に讓らざるべからず吾人は須臾らく松陰の胎内にある其の始めに遡りて其の父さ母さの品性如何を講究せずんば止まざるなり

其他ルーテルに於ける又ナポレチンに於ける或はリンコルンに於ける若しくはプライトに於ける彼等が實に完全なる基督教的謙遜さ敬虔さに基ける消極的事業の製產物たりしと明かならずや

之に反して北山啓子其の男安正の殺す所さなれり安正素より相當の學才なきにあらざれども遂に發狂の最後を遂げたり又佐久間格二郎放蕩無頼諸國を流浪して身を措く所なし至る毎に象山の恥辱を重ぬるのみ此類の實例甚だ珍しからず加之吾人は常に此の類を見る毎に不快の感に堪へざりき故に又敢て其の多例を掲げて讀者の惡思を妨ぐべけんや

吾人は素より本論の極小なるを知れり如何んぞ活動せる此の世界の人類を舉げて盡く本則の下に服せしむべき然れども實に是れ余が管見の着點なり而して殊に吾人は統計上より私生兒の多くは劣才に屬するを見る又醫學上より懷妊の際、憂慮苦思に母体の腦力を費せしとあらば產兒をして智力を欠乏せしめ殆んど世の廢物に屬せしむるとを知れり

伊藤東涯俊才博識物部茂卿竊かに其の先を競へり然れども今に至るまで茂卿の凱旋を聞かざる程に碩學の人なりき茲に至りて吾人は前說の撞着を疑ふ者にあらず却て一種の眞理を開發し來れり曰く謙遜なる大人物は更に又大人物を產むの運命を領せり然らば則ち東涯の碩學多々益々辯ずるさ共に仁齋謙遜の程ぞ仰がるれ吾人は今

謙遜の美德さ敬虔の信念さは永遠不朽の勝利を期すてふ格言を撰成して論旨を終らんさす

○結　辭

嗚呼世界は幾十億の人口さ聞く此等は渾て男子にあらずんば女子而して又父たり母たるの天職さ命運さを領せり余輩は實に謹んで此等の姉妹兄弟に告げんさす願くは世間放逸無賴發狂白痴の子孫によりて恥かしめさ苦しみさを受けし不幸の父さなり若くは母さなりし人々の轍を踏むとなかれ宜しく進んで預言、改革、碩學、事業の人才を出すべし女子の消極的に立てる畢生の事業豈に他あらんや而して又豈に女子に限らんや

○氷川先生吊詞

杉　浦　梅　潭

意氣軒昂衝九天　堅壘內外卅餘年
劍經磨礪刄逾鋭　身處艱難名竟全
聳壑老松因底折　入雲仙鶴那邊眠
哭君空拂千行淚　悵望寒山一朶煙

家庭

花園隨筆

紫琴女

◎兒童の心理研究に就て男女特性發見法

兒童心理研究といふ事、先輩の指示により、我國にても熾んに唱道さるゝ事となりしはいと嬉し。人間本來の、性質如何を究むるには、之を大人に於てするよりも、小兒に於てする方、勞少くして效多きは、素より言を竢たず。之を敎育の上に資するも、是を道德の上に資するも、好參考を供する譯にて、洵に喜ばしき事の極みなり。夫に就て、我は一般兒童心理研究中の一科として、男女兒特性比較研究にも、重きを置きて、深く是をも研究し給はむことを祈り參らするものなり。其は一般大人を知るには、一般兒童を知ることの切要なるが如く、一般成年男女特性の區分を明らかにせむには、一般兒女が、先天に於て、如何の特性を約束せられたるかを、研むるの要あればなり。

さらば其研究方法を、家庭に於て、如何にす可き乎といふに。そも嬰兒が、生れ出し始より、母なる人の深く之に留意して、男たり女たりてふ特殊の觀念を避け學齡時までは單に人間として育てつゝ、子細に其特質傾向を要することにあり。假令ば、衣服玩具よりして、お伽噺に至るまで。物質界に屬するものも。精神界に屬せるものも、男なるが故に彼を供せず、女たるが故に、是を供せず。男女兩性の何れにも、要するものゝ二種宛を與へ試み、彼が自由の撰擇に任せなば。其特質を驗するに於て、違はざるに近からん。さるを世は、無知の嬰兒の、彼が自ら、男たり女たる區別を知らざる時代に於て。早くも豫め區別したる物件を附與するを以て。先天の約束を闡明するに、甚しき、混雜不便を生ずるなり。故に保育者自身が敎師とならず、寧ろ被保育者たる、幼兒を以て、先天の約束を、闡明するの敎師と看做し、彼が自由の傾向に任せなば、純然たる男女の差別を、何時の程にか發見するを得む。是必然の結果なり。子を持てる母君の、多くは必知り玉はむ。男女兒共に其始めは、同一の音聲に耳を傾け。同一の色彩に隨喜せるに拘はらず、何れの程にか特殊の傾向を顯はして、

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

漸くに男女の區別を、彼自から求め來るなり。此際に當りて鑿といはゞ、鎚といへる底の物件を、母の方より供給せず。假令ばかゝる際に切迫し易き愛情の、一時も早く、他物の更に可なるものを與へ、愈彼が嗜好を滿足せしめむの意思を去りて、此瞬間更に研究の念を喚起し、再び男女兩性に屬するものゝ、二者を併せて與へ試む可きなり。斯くして研究の時日を積み、一に其狀態と時日を記錄に止め置、他の研究に於ると一般、他日多數を綜合して、比較研究する、學者の材料に供しなば。其間動かず可らざる、特性の、一貫を見るとも易々たる可く、且は其特性の、誘導或は習慣的たらず、自然に顯はれ初むるは、そも何日頃の事にして、與に區分の確定するは、何日頃なりやといふ事をも、併せて確實に、識別し得可きなり。

尤も此研究の結果を、確實のものたらしめむには、彼に與へ試むる所の玩具其他の物件の如きも、二物の差は、單に男女の差に過ぎざるやうにと注意す可し、假令ば、此玩具の稠樂は新らしく、且美彩あるも彼手球は舊く、色彩判明ならずといへるが如き事ある可らず。或は、桃太郎の談話は、興味多きやうにと力めたるも、狐の嫁入の談話は、そこ／＼に仕舞ひたりといふが如き、特殊の差別を、避けざる可らず。然し專門家の研究といふにもあらず。いはゞ學者に材料を供せむ迄の家庭の研究に、あまり嚴敷事をいひたりとて、實際に其を行はむには、一人の子を育つるにあたり、既に二倍の費用と勞力を要すべき廉尠からぬ事にしあれば、斯く確實にと心掛る內にも、二物の間に、止むなき差を生ずるは是非なき事なり、故に單に母としての研究には、少しの用捨あるも可なり。爲に此研究を難しとするは、遠くいへば學界に、忠なるの母君に非ず。近くいへば、女界に、忠なるの母君にもあらじかし。彼一般兒童研究が、世の母を離れて、立ち難き夫れよりも、此問題は、倘ほ且切に、母の膝を研究の机と限れるものなるを以て、別ても世の母君には一言せしなり。

彼女權問題といひ、女子敎育論といふが如きも、此問題の、科學的に、闡明せられたるの曉には、紛々たる世論一定して、東天曉を望まむと、いと容易なるべしと、思へば嬉しの問題ならずや。如何に樂しき研究には、非るか、乞ふ試みに左に二三の愚存を言わん。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

男兒の早く好くはなし

單に男兒といふも、性質嗜好の同じからざるあり。或は家庭の狀態と、四邊の光景如何により、知見の、彼に延びて、是に短かく、爲に彼事には趣味を解し得るも、此事には趣味を解し得ずなどいふ相異もあるべければ、一概にはいひ難けれども、男兒が武勇談を好くは、一般を通じての、天性なりと思はるゝなり。仁人君子忠臣義士孝子節婦などいふ談話には、未だ何の趣味をも解し得ざるほどの幼男兒も、武勇談には、いとはやくより耳傾けて、よほどの興味を覺ゆるやうなり。假令ば今幼男兒の頭腦に、一度清正義經の、武勇談を紹介せむか。彼は忽ち其名を記し、其人を渴仰し、果は踊躍飛舞、其勇に擬せむとするも、淸麿正成に至りては、比較的其名を逸し易く、比較的其談話を渴望せず。況して其面目を想像するなどは、餘程後期の事に屬す。是一は題目の解釋に難易の差あり。武勇といふは、單純にして、快濶に。忠義といふは、復雜にして、陰鬱なるにも依るべけれど。又以て武勇談なるものが、如何に早く男兒の心裏に、歡迎さるゝものなるかの、一證左たらずんばあらず。而して、しかく早く武勇談が、歡迎さるゝ所以のものは、單に其題目の、單純なるにのみ依るか。そも〳〵亦男兒の天性是をして然らしむるか。其を明確に斷言せむには、尙ほ幾分子細の觀察を要すべき事ならむも、我は我狹隘なる觀察に於て、男兒の天性に歸するの穩當なるを、認めたりといはんのみ。

附言　或はいはむ。男兒の武勇心は、桃太郎猿蟹合戰のお伽噺により、知らず〳〵挑撥されたるものなりと。されど我は、かゝるお伽噺が、男兒を挑撥するの力よりも、男兒が此種の武勇談を、歡迎する先天の約束の、更に大なるものあるを見るなり。

兒童に對する命令と奬勵

多くの兒童に就て徵し見よ其惡を罵るよりは、善を奬勵する方、遙に彼が柔順を見む。或ものを、持ち來れと命ずるにも、彼が躊躇命に應ぜざるを見て、直に是を叱らむには、彼は益執拗とならむのみ。かゝる際に、若し詞を寬うして、眞實にお前は好い子だよ、屹度あれを持て來て吳れるだらう。どれ

お母さんは、眼を塞いで居升うにと云むには。必彼は立ちて、柔順に其命に、應ず可きたり。温和ならざる子供に於て、益々此傾きの烈しきを見る。されど斯くして育てむ事の、果して善事なる可き乎、我は未だ研究の効を積まざれば、知らず。されど憂ふる所は、獎勵の、依頼と誤解され易きにあり。かくして育てられたる子供の、成長の後、人は毎に、依頼的にのみ、持込來るものと思ひの外、世間は家庭の習慣に反し、命令にのみ出るとならば、彼は長上に對して、怒り易き、性情に陷るとなかる可くや。是一考すべき事なり。

幼時に於る衣食住の程度

幼時の衣食住といふものは、慈母の懷と共に、全生涯を通じて忘られ難きものなり。よきにつけ、あしきにつけ、思ひ出るはおのれ〳〵が、育ちける、家庭の狀態なり。

しかも、富んで、貧しき昔を忘るゝは、人の通弊なり。されど貧に處して、昔の榮耀思ひ出ざらむ程の者何處にあらん貧の迫れば迫るほど、追ふて返らぬ昔の榮華、歴々と眼に遮ぎる。是にぞ中年貧乏は、人一倍の、苦しみを覺ゆるなりとぞ。

彼親代々の貧人の、貧に居て、貧を覺らざるは、榮耀の經驗なければなり。鯛の味知らぬもの丶、菜根は此上の美味ならむ。されど絹夜具に包まれたりし身を、木綿の下に横たへては。貧は格別の壓力を以て其人には迫るなり。

されば人の親たるもの、子を育つる際に當りては、豫め此邊の覺悟あるべきなり。衣食住の程度を如何に規す可き乎といふ事は、熟慮を、要するの問題なり。子に讓り渡すべき、幾多の不動產ありてだに、轉變多き世の中なるを。況して不確定の、收入を標準とし、生活の度を高めむに、子が親同樣の生活を續け得ざらむ時、彼はありあまりたる親の懷に、人生の春暖かなりし心地を忘れず。身に浸む秋の風冷やかなるを覺ゆる毎に、翻て往時に感謝せむよりは、寧ろ當時の窮乏を堪え難しとは、喞つなるべし。故に子を持つ親心に、まこと子の行末を慮らむとならば、他に適當なる積極の方法もある可けれど、消極の惟一手段としては、其生活の度を、力めて低め置くにあり。質素節儉の美風をと、事新らしく茲にはいはず只子の全生涯を通じて、取外す間敷と確算せらるゝ生活の程度の、其最下級なるものを以て標準とし、幼時より、其程度

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

なる衣食住に訓練し置くとならば、成長の後幸に今の幼時に勝れるを感謝するの念もぞ起らむ。今を幼時に比らべてけ、もの足らじとの失望を少しは防ぐ事を得べし。況して衣食住は、人生行路の路用なり。目的地に達する迄の費用なり。さるを、よき旅籠屋に、泊り慣れたる其人は同じく五十年の行路を行くに、幾萬金を要す可ければ、生涯を路用の算段にのみ、齷齪するの儘に終らむも、木賃宿の麁末なるに慣れたらむ身は、とまり〳〵の旅籠屋に、袖引とめらるゝ患もなくて、容易に目的地に先着の榮譽を博し得べきをや。

憐むべきは、發程を、高等旅宿に試みて、中途木賃宿の破窓に呻吟せる、有爲落魄の士女達よ。我は切に卿等に同情を、寄せ參らするものなり。されど窮苦と戰ふて、大に泣くは尙ほ可なり。爲に人生旅行の目的を、生活塲裏に葬りて、歩みを衣食の間に埋沒するに至たりては、其罪果して、何人に在るべきか。かゝれとてしも父母は、卿等を撫養せざりけむを。偏に罪を運命の嶮路にのみ歸せむとする、こは甚しく父母を傷くるものには非るか。

さはあれ、親としての心をもていはゞ、可愛の子に人生の旅を完からしめむ其爲には。豫め質素の家庭に、堅忍不拔の意氣を養はしむ可し。奢侈の家庭に、薄志弱行の徒とならしめざるやう、大に生活の程度を制限し置く可き事なり。

親孝行は子孝行より起る

親孝行ばかり麗はしきものはなし。孝を百行の元と稱して、あらゆる美德の之より發する樣に訓へたるは、實に尤ともなることなり。

左らば、親孝行の德は如何にして出來べきやと云ふに、凡そ人の子たるものは、孝を盡すべき筈なり、孝なきは不孝の子にして人外なりと言ひ放ち、從前は至つて簡短に教戒したるとなれども、少こしく實地に適せざる所あり。義は最後の鐵案にて、義を盡すべき故に盡すと云ふは、至極、美なる哲理なれど、扨て實際に之を盡す人の少なきを如何んせんや。孝は人の子たるものゝ天成の義務にして、本來生れ乍らに負へる職分なれど、其の實行に刺激を與へ、其の積德に助力を假し、以て孝の道を完備せしむるの手段なきにあらず。夫故、東洋在來の教訓の如く、只單に孝を盡せよと言ひ切る

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

のみにて、其他に申添ふることなきは、缺典と云ふべし。吾人の見る所によれば、親孝行の子は、子孝行の親の膝下に生ず。親たるものにして、慈愛深く、人情切に、而も、其の情愛の深切なることが能く子たるものに瞭解せらるゝほどに顯現せば、其子は十中八九迄で、大抵は孝子となるもの也。

彼の酒飲の親仁、むごたらしき親仁、口八釜しき母親などに、存外の孝子ありて、從順可憐、眞とに傍觀者をして感泣せしむるほどに殊勝なることあり。一鄕の評判となりて只管ら其子を賞め、其親を罵しることなるが、審らかに其實相を觀察せば、斯かる親々にても只一概に亂暴なるものにはあらず。見掛は如何にも慘酷らしく、子供が温柔しく孝養するに對して只だ無理斗り言ふやうに聞ゆれども、亦た存外に熱愛の温たかき所ありて、惡癖、癇癪の合ひ間〳〵に、溶くるが如き愛情を與へ、平素の苦がき經驗を一洗して、反つて切に其の間だを密着せしむるやうなる秘密なきにあらず。子は、痛き鞭には泣き乍ら、温かき涙には感激し、傍觀者の只だ上表に評する如き冷淡なるものにあらず。乃はち世人をして感歎せしむる程の孝行も爲し得ること也。一と度び此邊情合の秘義を吟味せば、孝行の子の親たるものが外面少さか酷なる如きを、無下に卑しむこと能はず。其の實によつて其の木を推し、寧ろ相當の敬意を表せざる可らざることのあるもの也。

夫れ、人の大率ね見て無慈悲の親とするものにすら尙ほ斯の如き關係ありて、孝子を生ず。況してや、他の情けあり、涙ある親たらんものゝ、もしよく其の慈愛を子の心に納得せしむるほどに表現せば、大抵の子は皆な孝行ものとなるべし。

但し、只衣食を厚くするが必らずしも親に對する孝にあらざる如く、只だ澤山に子に與へたればとて、夫にて、子は親の慈愛を悟るものにあらず。寧ろ不自由の間に勞苦して、子の爲に供え、疾苦の内に心を凝めて、子の爲に心配するなど、物にあらず、錢にあらざる以外の涙滲々たるもの發露せば、子は如何んぞ之に打れ、之に動き、感激全身に徹して、赤誠の孝子たらざることあらん。之れ尋常の人の間にすら必らず起る感格なり。況してや親子間、同血液、同電氣の優に交流しつゝある間柄に於てをや。

故に曰ふ、親孝行の子は、子孝行の親によつて、生成せらると。世上もし其子の孝ならざることを嘆ずるものあらば、只一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

概に其子を責むるに先だち、省りみて自己の慈悲如何に切に、自己の涙如何に温たかなりしやと問へ。必らずや、思ひ半ばに過るものあらん。

併せて曰ふ、孝を以て、義務と觀じ去るなかれ。之れ誤解の初めなり。孝は、情感なり、人心互ひに感應して、他の愛に動く、乃はち孝の行ある所以の基礎なり。もし能く孝心機動の淵源を尋ねば、枯れたる愛の泉に其の花の咲かざる所以を覺らん也。

近松女氣質

櫻井鷗村

(其四) 無明の酒に亂れて

夢見たやうな身の上は

堀川波の皷のお種

巣林子の女性を概觀するに、多くは、天稟俐溌の賢女にして、而して情性に熱急に、理性に乏しきものなり。理よりも情に熾んなるは、女子の凡質なるが、近松は特に、この特質を其極度に於て觀じたるものなり。彼が寫し出せし女性の容貌如何を想像すれば、眉はやゝ濃き方、目尻少しく下り、眼中些か潤みを帶びて光あり、顏は瓜實に、色白く、鼻筋通りて秀で、口元しまりて、歯並は多少不整、背は瘠方にして、スラリと高く、手の指は、細く長く、爪も長方なるものゝ如し。これ單に當推量にて、近松が當年のモデルは果して如何なる美形なりしや知るべからざれども、凡そかゝる容色の女は、才氣はあれども、多情にして、酷言すれば、淫婦となり易き種類のものに非ずや。堀川涙の皷のお種の如きも亦た、此類の女に非らざる無きか。

近松が、お種を描き來りて、波の皷の一悲劇を成したる所以は、情熱、劇甚なる一女子が、空閨の怨恨に、過ちを引起したる悲哀慘憺の經歴を細寫せんとしたるにあり。此類の過誤、世上其例に乏しからず。多情なる女子が、夫の留守に處するは、道德の危機に瀕するものにして、其所以は、お種よく之を示せり。

お種の、遺傳と敎育とを考ふるに、母は、身だしなみ頁かりし女と覺しくて、其子を敎育するには、婦道を盡したるものの如し、其遺言に、

女子の道を教へ込み、讀み書き縫ひ針、糸綿の道も、それでは耻ち掻かず、第一女子の嗜みは、殿御とつてが大事ぞや。舅は親ぞ、小舅は兄よ姉よと孝をなせ、外の男とさし向ひ、顔をも擡げて見ぬものぞや。惣じて、夫の留守の中、男とあらば召し使ひ、一門他人、おしなべて、年寄り若いの別でなく、此嗜が無ければ、四書五經を宙で讀む、女子でも役には立たぬぞや。

といへるは、女大學的婦道の古法、嚴として存し、取も直さず、これぞ、巣林子が、女子教育の理想を吐けるものなる。されど、人間は、教育の型にて、形成せらるゝものに非ず、假令、理性は教育の訓戒に服すれども、情性は、常に天禀の傾向に奔る。お種は、よし日夜、亡母の膝下に、此嚴乎たる婦道を授けられたりとするも、其天禀には、此教育の型を逸出すべき傾向あり。彼もと才智なきに非ざれども、加ふるに多情を以てす。愛想よくて洒落に、情の爲には理を失つて、人前の耻もかまはざる處あり。其妹お藤も、多少姉と類型の傾向を有するが如く、たゞ其處女なる丈に、情緒の發展に過度ならざるものあるのみ。之によりて見れば、かゝる性質は、成山家の女子の天禀と覺し。戯曲の詞書にも『國に名とりの濡者』『物やはらかで屹として、姿なら面體なら、京のどなたの奥樣にも、誰が否とは因幡山、國育ちとは思はれず。』とてお種の性質をアリ〳〵と記したり。げに因幡の國育ちとは、曲の筋の爲めに斷りたる丈にして、お種、お藤共に、上方の仇女なり。かゝる女子は、もし、其濃厚の情に於て、充分なる滿足を得れば、天晴の貞女賢婦の一生を全うし得べきものなるに、如何せん、夫、小倉彦九郎は

小身者の悲しさは、隔年のお江戸詰、お國に居ては、毎日の御城詰、月に十日の宿直番、

と公務に多忙にして、家内の睦みは、缺け勝ちなれば、家内に在りて、情愛の天地に生息する女子の耐へ得る處ならんや。胡蝶は花の蜜に露の命を支ふる者を、花なき野邊に、いかで、一刻を永らへんや。情愛の滿足を求めて之を得ると能はざる女子は、春に生れて花を見ざる胡蝶なり。而もお種の如くに、『彦九郎殿とは樣子ある夫婦故、嫁入の時の嬉しさは、譬へん方もなかりしが』と、戀を以て成りたる緣が、夫は、いつも餘儀なき譯の留主勝にて、『夫婦らしう、しッぽりといつ語らひし』事

もなく、夫の親つきが『目にちら〳〵と見るやうで、ほんに忘るゝ隙もない、不斷戀してなるやうで』は、なんぼう、情念の苦しく燃ゆる事なるべきぞ。

凡そ人、心に苦しむ處あれば、多くは、己の嗜癖に訴へて、一時の鬱を忘れんとするものにて、お種には父成山忠太夫よりの遺傳にて、飲酒の嗜癖あり。亡母は、この嗜癖の危險なるを知りて、妹お藤に

　姉は父御のそんをつぎ、後紐から酒を含む、藤よ母になり代り異見せよ

と末期の刹那にくれ〴〵も血を吐く遺言はしたれど、癖は、痼疾なれば、道理にては其非を覺らぬにあらねども、夫さへ家に在らば、この惡癖も、情愛の滿足故に忘るゝともあるべきなれど、空閨の淋しき恨みに、心悶へて、つい〳〵憂ひを拂ふ玉箒と唱へ『夫は永の吾妻の留守、心慥に持つ爲と』、との似非道理を附けて、一つ過する酒好、盃とつては、天晴な强者の本性を顯はしつゝ、酒は、心を亂し、情を更に熾んにするものなれば、お種は此際、いよ〳〵夫の不在勝にて、我戀しき緣の心足らぬを恨み喞ち、切々に情愛の滿足を欲求し、情多、ます〳〵多、一刻も、夫が傍に在らざれば、氣狂せん計になり、これや遂に一命を果たすの種となりしぞ哀れならずや。

　戀愛は一種の癖なり、一たび其樂しさを味へば、男女共に之を忘れ難し。特に情性に熱烈なる女子を以て然りとす。されば、不貞の過に陷るものは、處女に尠くして、若き人妻、若後家に多き所以なり。お種ごとき濃情女子にして、戀婿の留主を守るは、危きこと此上なし。夫婦らしき語に欠け勝にては、なまじひに、夫てふもの無くば、この苦痛はあるまじきにと歎く折々、いと多く、夫の江戸留守に、親里に歸りて居る心、いとつらく、されば、妹お藤が主人の屋形より宿下りして、共々に張物する時、しみ〴〵と彼に引くらべて、處女の昔、却て戀しくなり、

　いやなうお藤、必ずお主の氣に入つて、いつまでも奉公しや。男やなんぞ、持ちなんや。

といへるに、お藤は、いまだ、戀を知らざる身の、何とて、この歎言の眞情を解し得らるべき、

　姉樣それは榮耀ぢや。私がやうに、根から男の無い身でさ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

へ、見ん事堪忍しまするぞや、殊にお屋敷行義づよく、此様な親里でも、一夜泊りも法度なり、姉様なら死なしやんせう。

と、根から男無き身こそ、却て辛抱し易きものなるに思ひ到らざるは、畢竟、處女の知れる道理にして、人妻の承引し難きものなり。這般情感の消息は、現在、姉同様の身に成りて見ずば妹には迚も解し難し。

閨怨の情懐、若き女の身を攻め苦しめて、少時だに、之を語りて、慰めを受くべき友なき徒然に、たま〳〵妹が宿下り、此時こそと、積る思ひを訴へて、兎角は、我を憐めと願ひしかども、我心は、處女心には酌み分け難く、假初にも他に語りし丈に、情はいよ〳〵激し、折柄奥座敷にて、一子文六が皷の稽古、師匠宮地源右衛門が打つ聲の、紀念こそ今は仇なれ、是なくばと、怨みを述ぶる唱歌の音に連れて、陰々と響くに、お種は、氣も心も乘せられ、虚の空になりて、連合戀しくなり、奥の人々をかいまみ覗き、師匠の姿に、夫を聯想して飛立つ思ひをまぎらし、庭の松の木目がけて、

あれ、連合の御歸りぞや。いで〳〵迎に参らう

と走り寄るを妹は

姉様、正體ない。彼は庭の松の木よ、彦九郎様は江戸にちやわいの。氣が狂ふたか

と恥づしめたるに、お種が、其然らざるを辯ずる處、作者が婉曲の筆によりて、假令口には氣狂ひならずと斷はれども、其實、皷の音に、層一層閨怨を催されて、彼は情狂の態度を表現したるものなり。

情狂の奴となる如き女子は、其多情なる丈に、他人には愛想よく、取分け、風采よき男などは愛嬌を振り蒔くものなり。お種は、母の遺訓によりて、夫の留守の中は、男とあらば、召使、一門他人、おしなべて、差し向ひになるべきものならずとの謹愼の覺悟は知れども、情熱熾んにして、其徒然の淋しさに、少しにても鬱を散ずべき機會を求むる處へ、皷の師匠とて、浪人でも藝人府の、様子よき男子、出で來りては、心やりの話なりと聞きたきは、自然の情にして、本來の愛想を振り蒔きて養子文六の師匠とあれば、近付の爲めと、媒介を酒に托して、一時の快を買ふて、宮地源右衛門が爲に言葉巧みに、ためつ、弛めつ、こちらの思ふ壺にはめて、情念を

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

飜弄せられては、これが若し、戀しき夫と差向ひの酒宴ならば如何にやと、猶更に情愛の不滿を感じ、酒と戀とに、心思紊亂し、お種の、道性の危機、いよ／＼急なり。

妹は歸り、源右衞門退坐し、お種一人、酒に上氣して、心亂れ苦しく、郎君何の時か歸ると、殿待ち顔の夕、夕暮は、更に人の待たるゝものなる處へ、兼々、お種に思を焦がし、武士の立身振り捨てゝ顧みざる、無智無學の痴漢、お種の父の不在なるを知りて、入り來り、一顧の情あれかしと切望す。情愛無き處には、道理あり、痴漢は、女子の愛を惹く能はず。お種たゞちに之を痛罵し『小倉彦九郎が女房ぞ、侍の妻なるぞ』と凜然、言つて放せしは、賢女の姿なり。痴漢が、死を以て强迫するに至りては、こゝ日頃愛想よく、才氣ある女の常として、誑かして嬉しがらせて、歸らしめたるは、よかりしが、襖の彼方にて、源右衞門に立聞きせられたると分明しては、お種は女心に、氣も据らず、かゝる事柄には、辯解のしやうも無きものなれば、胸のだくつき堪へ兼ねて、下女呼び起して酒の燗させ、獨酌また鬱を遣らんとして、いよ／＼江戸の夫の事忘られず、情念ひたぶるに狂ふ。心は千々に亂れて、煩悶苦吟する途端に再び源右衞門を見る。

源右衞門も、明かに、お種に心ありしに非ずとするも、己も年若きに、獨り巣守の若き女の艶なるを、朧月夜の影に見ては、高が藝を以て渡世とする人物なれば、痴情を動かさゞる能はざりしなるべし。お種は、前に痴漢を誑かせし戲言も、人に聞かれては面目なく、源右衞門は、家中一杯往來する人なれば、一たび口尖にかけられては、評判取沙汰乍ちの間に、藩中に廣がるべきを知れば、源右衞門に、沙汰せぬやうに懇願するを、『拙者は他言致すまいが錐は袋と外よりの取沙汰は存せぬ』と曖昧に言ひて出でんとしては、お種は、心此に至りて、いよ／＼動亂を極め、前後の考も定まらざるやうになり、

然りとは酷い御詞、御身様も若いとの、我も若い女の身、實の斯うした事聽いても、隱し蔽さば世の情、此分で去せては、私心落ち付かず、云ふまいとある固めの盃、取り換はして、

と我から先づ呑んで、他人にはすまじき、つけざしをなさせしは、元來、これ男の心を獲んものとの手管なりしが、心な

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きに非らざる源右衛門は、つげさしされて『こは奇しいつけざし』と押し戴いて呑みたるは、嬉しき節ありしが爲めにて、痴情躍動の狀歷然たり。情に迷ふ處あれば、理も亦迷ふ。

○お種の源右衛門を見る、其風采舉動にて、好き男と思ひしなるべければ、閨怨の身、情は迷ふて、其迷ひに加ふるに、無明の酒に醉ひくづをれて、何のわいだめ無く、今日始めて見し人、夫ならぬ人、夫の留守には差向ひ大禁物の若い男などとの覺悟は、消え去りて、殘るは、夫を慕ふ一念に狂ひ亂るゝ情愛の爲に、理性影を沒し夫に會ひし積にて『思はず誠の戀となり、夢覺めて悔めど詮方なく、恨みを飲酒の故に歸して歎けど、飲酒はこの過誤の媒介者なりしとは勿論なるが、第一の原因は、夫に別れ勝にて、天性濃厚の情愛の滿たされざりしが爲なるに在り。

夢覺めて、乍ち其非を覺り、痴漢には證據押へられながら、慊然、其過を思切るとならず、惡き事と知りつゝも、針の座に坐しながら、怪しき契を重ねたるはこれ實に人情の弱點にして、惡むべしといはんよりはむしろ愍むべし。一方には、この不義を行ひつゝも、夫を慕ふの念は、切々に增長し、

親にも子にもかへじと思ふ、稚馴染の我夫、一年隔てし永の留守、月よ星よと待ちうけて、漸々今朝殿御の顏、見たぞ嬉しや。

と戀情、燃ゆるが如くに、留守中の不義徒が、如何なる結果を持ち來すべきかに考へ到らず、家中一ぱいの是沙汰も耳には入らず。墮胎藥飲んで、不義の實を下して、不行跡を陰蔽せんとしたるは、敢て夫を欺かんとの惡心あるにはあらで、いつまでも其愛を失はざらんやうに希ひての苦慮のみ。此間、理性の働きなく、たゞ情狂の沙汰に迷ふ。妹お藤が苦肉の策の、姉思ひの爲めと知れてや、お種は、慊然、我正にかへりて、眞情を吐露し來れり。

好みし酒も今思へば、前世の業の毒の酒、無明の酒に醉ひさめて、自害せんと思ひしが、夫の顏を今一度、見たい／＼と思ふより、今日と延び、翌日と暮れ、世間に恥を晒す事、我身に惡魔の魅入か。

と、何ぞ、其言の慘憺悲痛なるや。巧まぬ不慮の惡緣の、不義の罪過故に、夫の刃に斬らるべき折にも『今一度夫の顏見たやとは思へども、淚にくれて、目も開かず、非を覺りて、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

夫兄弟へ申譯の爲、自ら刄に伏して、一息將に絶せんとする刹那まで『愛しき我夫を、袖にしての不義ではなし、夢見たやうな身の上』と、夫の哀憐を乞ふは、悲哀の極に非ずや悲劇の多きも、これより哀れなるは無けんか。誰かお種を思ふもの、其罪を赦して、其人を憫まざらんや。夫彦九郎が、死骸に取付き『など最前に衣を着せ、尼にせんとて、命をば貰ふてはくれざりし』と兄弟我子を恨み泣き、人々共に泪ながらに、なまじひに、女敵打の意地持たねばならぬ元祿の武士の身こそ仇なれと嘆く聲々に、お種の罪は赦されて、靈魂は佛果を得たりけん、其熱愛の情感は、爰に初めて滿足せしなるべし。

●ワシの此の邸が外國人なら、十五万圓に買ふと云ふのよ。ワシは夫を待て居るのだ。早く内地雜居になれば、之を賣る。スルト、長屋のものらも、「勝サンの時には、大根五本シカ買はなかつたが、外國人が來てから、二十本買ふ」と云つて、喜ぶよ。此の近所が潤ほふ。スルト、ワシが怒つて、「外國人にへつらふ、賣國の奴だ」と言つて慷慨するさ、みんながさう言ふよ、「勝サンは、どうも、少し氣が違つたやうだ」ツテナ。(海舟餘波)

雜録

鬼面百相（其三）

青柳有美

○夫婦別居論の唱へられざるこそ、不思議なれ。親子の情愛も別居によりて、増すべくんば、夫婦の間柄とて、別居によりて、其相愛することの、増さずやは。朝より寐るまで、ベタ／＼とお差し向ひの餅搗は、愛想づかしの礎ぞかし。堅く天下の御法度と心得ふべきものなり。

○和洋折衷に、碌なためしなし。されど、牛鍋のみは、よく折衷の極意に達せるものなれ。和洋折衷は、宜く總て牛鍋の如くなるべし。

○支那分割を慷慨するほど、歴史を無みせるはなし。昔し、羅馬の領土を東邦に擴むるや、是によりて、古き希臘文明を吸收し、遂に近世文明の源なる希臘羅馬の調和文明を作れり。歐州諸國もし支那を分割所有せば、之によりて歐州文明の大に支那化せらるゝこと、なほ羅馬の天下のヘレナイズせられ

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

たるが如くなるべく、茲に東西兩文明の調和來らむ。故に、悦んで歐州諸國の支那分割を歡迎す。

○人間の心は共鳴器なり。

○財貨の人に於るや、恰も輜重の軍隊に於るが如し。之を捨つれば戰ふ能はず、之を運べば進軍の妨げとなる。

○物理學に所謂滑車の法則ほど、世に眞なるはなし。力を要すること少ければ、時間を要すること大に、其間逆比例をなす。骨折らずして早く出來る仕事など、決して天が下にあることなし。

○『曰く、言ひ難し』とは、音樂を聽きし人の心なり。

○進化論によれば、進化せざる瞬間には、必ず退化ありと。人の品性智力など、又然かなり。

○肉食して營養佳良なる人は、その智力甚だ痴鈍となる。されど、菜食して營養不良なる人は、その智力鋭敏にして、頗る直覺力に富むるに至る。これなほ身躰羸弱の病者が、その身バロメートルの如くになりて、大氣に極少の變動あるも、よく之を感知し、將に雨降らんといひ、將に雲霽れんといふの理に同じ。故に直覺を重しとする詩人發明者の輩は、營養

不良にして菜食なかるべからず。されど、良好なる食物を取る人の、勢力を増し長が持ちするは事實にて、かゝる輩は、一日二日の徹夜などにて、頭を腐らさず。

○英吉利人は、やかましく道德騷ぎをする割合に、融通の利く人種なり。グラッドストーンは、其標本乎。

○南方人種は、その風土の熱せるが如く、其心また熱す。是に於てか、以太利人は、頗る嫉妬心強きもの丶如し。

○禪宗は、中世紀のスコラ哲學に似たり。其好んで『針頭幾何の天使を立たしむるを得るか』と論究せる如きは、かの參禪の輩が『赤手に聲ありや』の公案に、冥想を凝らすに異ならず。

○天照大神瓊々杵尊に明鏡を與へて宣はく『之を見ると、我れを見る如くせよ』と。大神も、仲々のお化粧好きにて、朝な夕な之れに姿をうつしみて、鏡には魂を込め現たぬかれしと見えたり。女のおしやれは千早振る神代よりなり。

○聖の聖なる愛、純之又純なる戀は、妻ある男、夫ある女を思ひ念ふに於て始めて成る。獨身者の戀愛は、結婚の慾望を其の底に隱せど、既婚者の戀愛は、たゞ愛するなり、たゞ戀

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ひするなり。之を手折らんとはせじ。故に聖なり、故に純なり。戀の妙味は、人妻を懸想する所にあるものを。

○嬰兒のおしやぶりをしやぶる如く、人は斷えず何か口の中に入れ置かずば、不平の色あるものゝ如し。さればとて、菓子茶などにては腹に溜るべければ煙草を用ゆるなり。煙草の煙は口に入れど、腹は塵一つほども膨らさず。其捨て難き思ひするも理りなれ。

○近頃友のうちに、『精神柔術』を新發明致せりと、吹聽するものあり。『敵の力を利用して相手を倒すの術か』と問へば『然り』と答ふ。世渡りの術を知り天下の愚人を操縱せんとするもの、就て入門すべし。

○希伯來人は形相より抽象に入り、印度人は抽象より形相に遷れり。故に希伯來人は、自然の崇高に歸納して、唯一の神を靈覺し、印度人は唯一の梵天を演繹して、萬有神教の教徒となれり。故に又、希伯來人は統合的にして、印度人は分解的なり。血族は爭はれぬものと見え、歐州人も同く分解的なり。『印度歐羅巴人種』の類稱こそ、こよなく、面白ろけれ。

○美人を娶るを、心恥しく思はしむるは社會近來の病弊なり。是れ全く人種の發達を度外視せるの見にして、小面惡き道德將た小ましやくれたる學問などが、出過ぎたるおちよッかいなれ。御當人は其れにて辛抱すべしとするも子々孫々まで、『獅子鼻』『お太福』などの出で來らば、中々以て可哀そうのことならずや。昔し、希臘のオリムピヤ、ゲームの時に行はれし如く、今も折々『美人共進會』を各國に開きて、美貌の競爭獎勵をなし、美人に非ずんば、結婚する能はざるまでに至らしめば、人類の相貌又大に進まん。

○猶太の宗教は蠻勇教なれど、希臘の宗教は『美』の宗教なり。

○自ら己が善を樂む能はざる人は、他人の善を損ふて、必ずその惡を樂まんことを希ふものなり。これなほ自ら食を得んとするの念切實にして、しかも食を得る能はざる人の、他人の財を奪ふて自ら飽んとするに同じ。

○近松は文字にあり。沙翁は靈智にあり。故に、之を譬ふれば、近松は盛裝化粧せる文金高髷の下町娘の如く、沙翁は束髮姿の女學生の如し

○バス(最低音部)は帝王の如し。故に泰然として變化少く、悠然として一隊の重きをなす。サツプラノ(最高音部)は事務

官の如し。故に此處に走り彼處に行き、汲々齷齪しぼしの寧悠なし。

○多事にして、用務續々後ろより押しかけ來り、凡て消極受動の時は、早く寢ねて早く起るを、時間の經濟とす。されど、業務責任のこと、左程に忙しからざるも、自ら進んで勉め勵み學び修めんとする如く、積極發動の時は、遲く寢て遲く起るを、却て時間の經濟なりとす。

○シェークスピヤは、自ら龍動に居りしも、妻は之をストラスフオードの別園に離し置きて、たゞ折々見舞へるのみ。

○婦ほど、横着にして蟲のよきはなし。萬遍なく八面玲瓏と四方八方の男子に愛嬌をふり播き、ありとあらゆる多くの男子より愛を買はんことを是れ勉めながら、その數多き男の一人にてもだに、稍々愛の減ずるを覺るや、我が病は之を棚にあげて、直にその男を恨み憤ふること非常にして、殆んど之を殺さずんば止まず。眞に恐ろしきこと也。

○女の所謂こり性には、男子の弱點なる、質に以て閉口頓首す。

○さる一事に感激して、稍々物狂はしき氣味となり、中央幼年學校を出るに至れる一幼少年あり。告げて曰く「成城學校の生徒なんか、妙に肩ばかりいからかして威張ッて居るから『卿等の樣に、肩ばかり妙に張ッて怒らして居ちや「氣を附け」の姿勢をするに仲々骨が折れて大變だぞ』と、言ッてヤッた」と。

○獨居の折、笑ふ能はざる人は、想像力の痴鈍なる人なり。

○社會人情を觀察するに勉めずして、しかも可なりの世渡りせんとするは、鏡なくして化粧せんとするの愚に同じ。猿芝居たらずんば、幸甚。

○婦の愛は變ることなしといふ男よ、眼をあげて今日この頃の花を見よ。男子の意氣たよるべしといふ孃よ、頭を垂れて、爾が立つ大地を思へ。

○婦人の男子の前に飾りつくろふは、美術的なり。その心根や寧ろ愛すべし。されど、婦人の婦人の前につくろふや、僞善的なり。其こゝろ根や憐むべし。

○凡ての政體は、帝政より出でゝ、又帝政に還る。

《まだある》

大磯だより

長城居士の臨終

如雲 記

三月廿五日夕、數日歸らざりし吾家に歸れば、大磯中島湘煙女史の來書、吾を待てり、表に、急用不平安の文字あるに驚ろき、遽然として披けば、大意言はく、長城二十日前來異狀あり、余は此度こそ最期ならめと直覺する由のありて、夜衣帶を解かず、倒るゝ迄も十二分の看護せんと思ひつゝありしが、土地の醫師は平然として異ありとせず、則はち、本日(廿四日)佐々木博士を請じて診せしめしに、果然其望なきを斷言し、凡そ二三週間の壽ならんと告らる、故に、急に君に面談したきとあり、大事既に定まる、固より亦た醫藥の事にあらざるは君の知り玉はん所と、且つ、一詩を附せらる、

茫々往事散如ㇾ雲、　多病豈期吾又君、
一穗寒燈影將ㇾ暗、　滿襟愁涙向ㇾ誰分。

嗚呼是れ、女史が長城居士に見めせるもの歟、其狀宛がら目睹る如し、余、滿胸涙充ちて物言はず、直ちに板橋驛に走り滊車に托して大磯に急奔す。

夜十時大磯驛に達す。月光暗澹、松影疎薄、歩して釜口下に到る時、一燈、山下の家玻璃窓の間より漏るゝを見る、則はち中島家別邸なり、胸波を沈めて平らかに音なへば、戸靜かに開き、邸内光明るく氣沈々たり。長城居士の病太はだ惡しきを察する也。

其枕頭に到りて問ひ參らせば、居士、氣息切迫、痛苦酷はだしき間より、首を擧げ微笑して曰く、『今日は是れ臨終の日なるに、何故か未だ瞑するの機到らずと。少らくして又曰く、碧巖錄に、作麽生是れ淙源一滴水、乃是れ淙源の一滴水と。又、無覺禪師が、電光影裏截二春風一と言ひたるなど、至極面白いと思ひ居りし』と。音吐、麗朗、氣力、新快。宛がら禪門、法語を談ずるの狀なり。傍らに、某あり、慰さめて曰く、閣下尙ほ大丈夫なり、何卒速かに全快あれと。居士笑つて曰く、大丈夫とは行くまいて。

余は亦た尋常の慰籍を言はず、如斯きは只だ無用なるのみならず、反つて其の淸思を破ると知れば也。此の夜、大抵、枕

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

頭にあり。偶ま暫らく別室に入りし時、湘烟女史亦來り靜かに惠書の旨を語りて曰はく、

見玉ふ如く最早や書中に要せし事は了りたり。然し乍ら審かに述べて來訪を謝せん。佐々木博士、果して余の直覺の虛ならざるを證し玉ひしより、抑そも此の診斷を居士に告ぐべきや否やに深く惑ひき、尋常の人を以てしては、無論其死期を告ぐべきにあらず。然し乍ら長城の如きは然らず。左れど、尚ほ惑ふ由のありて之を君に諮らんとせしに、奇しむべし、本日午前は庭前に逍遙して何の異狀もなかりしに、午後平座團欒して語りしとき、ふと立んとして忽然死期を覺られしものゝ如く、『ア、分つた、己は最早や、死ぬる』と言はれたり。則はち、われに語りて曰く、卿と棲むと十六年、日月既に長し、左れど吾心中には尚ほ長く感じて、百年も同もに住ひせる心地せり、毫末も遺憾なし、卿は之より筆硯を侶とし、靜かに病を養なひ、緩やかに後より來らるべしと。われ、揮毫を乞へるに、快然として、雲鶴の二字を書し、破顔一笑せり。此の笑ひや、十六年間未曾て見ざる清重爽快の笑ひなりき、之より、二子に訓へ、

又國家の前途を談じ、而して後ち躰輕く躰寛やかに、初めて重荷を卸せし如しと語られしが、暮に到る比、倒れ、病勢頓に加はりたりと。

余は、女史が覺悟の凛然たると、情思の熱切なるとに、今更の如く感慨し、且つ曰へり、眞とに死期遠からじ、天命それ之を奈何んせん、但だ死期を覺られしは、唯一の希望なり、居士の如きをして今に於て一生あらしむるは、唯此般の醫藥の外なしと。然れども、明日午後を以て其の末期と覺悟し、密かに戒しむ。嗚呼、人の死や免かる可らず、此の死や更に逃れがたし。逃れがたしと知たる時の痛恨は、余は三年前に於て全身に刻みつけられ、今尚ほ創痍癒えず。女史が凛然たる衷心に、幾多の想像浮動し、千百の長城居士出沒隱見しつゝあるを察しぬ。余何んぞ多言するに忍びん、只だ一默ありしのみ。

廿六日午前、居士太いだ佳し、天氣亦清朗、庭前の風景極めて麗らゝかなり。家人大いに安んず。余は密かに、正午以後の狀態如何んと氣遣へり。遂に、三時に及ぶ。自から決して曰く、此の病到底望なし、たゞ尚ほ一二日の餘命はあらんか

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

と。則はち、居士の第三子に所懐を告げ、一旦家に歸りて處理し亦直ちに再來すべしと約して出づ。回顧するに、是れ眞とに不覺悟なりき。

此夕、居士遂に長眠せらる。翌日、余が再來して、女史に聞ける所ろ左の如し、

居士は湘烟女史に語りて曰く、本來は昨夜永眠すべかりしが、何となく騒がしくして快ちよく瞑すると能はざりし。今日、御身と我と只二人の時、もし機會あらば、瞑ずべしと。此夕七時、女史と、醫師と只二人、左右にあり。女史居士の手を握りて脈搏を窺ふに、漸やく沈靜するの氣あり。目をもて、醫師を見るに、醫師、何事と思はれけん、立て隣室に入り、夜食す。居士、巨眼を開き、女史を長望す。女史則はち此時と觀じつつ、手に居士の手を握り、頭を蓐上に垂れ、祈禱を捧げ、天父に、其の愛郎の靈の招がれんとするを泣告す。祈禱の前半には、居士の脈尙ほ確かなりき。後半には、次第々々に薄らぎ、遂に永眠に入り、

長城居士の生涯、玆に結了せり。

此時、醫師及ひ家人皆な隣室に集まり、女史の行動を奇なり

とし、反つて女史の爲に憂ふるものありしと云へり。居士の瞑目の尋常にあらざりしを見るべし。嗚呼、哲士の逝くや、先づ自から知る、尤とも親しきもの亦之を知る。其他、何んぞ、醫藥の能く辨ずる所ならんや。

長城居士は、博士モーア氏に受洗せり。又、初め、坦山に聞き、近ころ宗演を友とし、耶佛を併せ信仰す。其の終に臨みて、公案を提唱し、且つ夫人の祈禱をもて引導とす、眞とに異例と云ふべし。

此故に、友人宗演禪師に托して、大磯町大運寺に葬むる。廣く告げず、只だ親友の來葬を待つ。伊藤侯は、尤とも周旋せられたり。其日、棺を出すとき雨ふる、埋むる時、晴る。嗚呼、帝國玆に一義人を失ひたり。

居士少うして義烈、晩年頗ぶる壯重、自から持する堅貞、英氣肚腹の下に洗み、大抵靜平なり、一旦雷霆の激發するや、王侯も亦屈すべからず、淸廉退藏、毫も野氣なし、當世眞とに稀なるの淸士なりき。

嗚呼、余や、ことし何んぞ慘なる。世上茫々知己あるなし、唯だ有る所の人、今玆に、過半を失ふ。是れ何の兆ぞ。

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

新刊書

新青年

兵庫縣の人、大城戸默川、題號の書を著はし、大に青年の時弊を論じ、且つ其の救濟策を講す。凡そ近年、青年の爲に青年らしきことを言ふ青年少なし。此書の如きは、よく青年の志氣を言明したるものゝ一也。斯の如きもの續々出でて、而して後ち青年の活火一團となるべし。(京都四條田中治兵衞方發捌、定價三十錢)

世界歴史譚 第三編　耶蘇

上田敏著　博文館發行

『耶蘇』なる題目は如何に吾人の心臓に雷の如き音響を傳ふるよ、誰か此題目に接して先づ偉大崇高の感に打れざる者ぞ。博文館は上田文學士に依て世界歴史譚の第三編として此題目を捉へぬ、廿七字十二行一百卅八頁の小册子、固より萬古に徹逕するの大史眼を以て神人相繋かる玄妙玉微の消息を咀嚼分析して餘蘊なきが如きものに非るは云ふまでもなし。しかも著者自ら序して『年少未た宗教の幽玄を語るに足らざるを思ひて批判を試みず眞僞を斷せず唯教祖に關する傳説を抄譯せしのみ而して記事の序は大英通典フアラア氏の稿に據り傍ら著者が平生學び得へたるを加へぬ筆に含蓄なく文に色彩なきは素より自ら知る所なれども事苟も一宗が教祖の上なれば記述の際おのづから確たる史的根據に徴して筆を執れり』と云ふ、これ大聖基督の如きを傳するものが宜く取るへきの態度にして、獨斷的偏見を以て漫に神人を審判するが如きは謙遜なる文士の爲さざる所なり。篇中章を分て緒論、降生及少状、傳教及ひ迫害、受難及び復活となし、材を福音書及其他の聖典に採れり。吾人は著者がバプテスマを以て『洗』若くは『滌』等單純なる『あらひ』の意味を表するの文字を用ひたる妥當を缺くの外、大体に於ては繁簡の取捨宜しきを得たりと信す。特に喜ふへきは詩趣津々たる救主の生涯を叙するに簡潔にしてしかも流麗雅致に乏からさるの行文を以てし、著者文士漫りに燦爛の美を衒ふて繁縟厭ふべきの陋に似ざるにあり。不折氏の挿畫根據些か薄弱なるやの憾なきにあらねど清新の筆意また掬すべく、其表裝紺地の大空に金色燦爛たる十字架を現はしたる一見人をして肅然襟を正さしむるに足る、吾人は趣味ある好著述として少年諸子の前に推すを憚るものにあらす、定價金拾參錢(踏火生)

時事

評判記

無草庵　有美

○音樂學校學友會演奏會

取りわけて、書きたつるほどのこともなけれど、鳥居沈氏が作歌にてウエーベル氏の作なりといふ『探梅』の一曲、會員諸氏によりて歌はれしが、曲調の相和せざること、近來無類にて『自轉車に油させよ……』とおかしく合聲を斷續せられし時には、笑聲其所此所に起り、忍はず噴き出さじるを得ず、純然たる一大滑稽たりしといふべく、茶番と譏らるゝも申譯の辭なかるべし。たゞ『木下川あたりは……』の一行のみ、稍々春の日に遇ひし心地しぬ◉神戸絢子君のものと田中ナソ子君のものと、ヒヤノ獨彈は二つありしが、世間の狼連が騒ぐほど、感服は仕らず。絢子君の如き巧みは確に巧みなりと雖ども、ヴアヰオリンに於ける頼母木子の如く、わざとらしきところ多く、末の望み少し。我れは寧ろナソ子君を以て、將來大成の器あるものと謂はん。凡て『ぶる』といふこと、藝術進歩の大害なり◉ヴアヰオリン合奏の時、向つて左の端に立たれたる川井子とか聞く一女生、仲々演奏に身を入れ居らるゝ如く、一見して故鈴木福子君を想はしむるほどにて、其姿勢發動優に他に異れり。之を喩ふれは、ヒヤノの由比久米子君に似たらんか◉今更の如く、この日又感激に堪えざりしは、幸田延子女史が女聲唱歌『夜の歌』及『枯風』の伴奏なり。伴奏とはいひながら、三昧に入れる女史が死物狂ひの彈じ方、

感嘆の外なし。活氣あり氣慨あり、凡て女史の指に觸れたる鍵板の音は、餘人の彈ずるものと別種の活音なりて、其の力凄し。矢張り西樂界の名人は斯の人なりけり。

○瀧廉太郎氏と橘絲重女史

瀧廉太郎氏の、ピヤノに於て、將來望多き好青年たるを宣揚せしは、我儕の世人に先んでゝ、なせしところなり。今や、文部省がピヤノ專修のため海外留學生を派遣せんとして、廉太郎氏の其撰に當るべき由を耳にし、雀躍禁じ難しと雖ども、又一方には橘絲重子を押すものあるを聞き、稍々憂へざるを得ず。女性なるものの凡て學藝の極致に達し難きはいふまでもなく、殊に音樂の如きにありて、その發動に生氣を欠くは、尤も明なる事實にして、辭むべからず。その一たび婚儀を整ふるや、到底藝術の化身を以て之に望むべからず。さればとて、政府は曾て留學生なりしの故を以て、その戀愛と其婚儀とを禁制するの權能なし。然るに、かの大幸田子が、女性にしてしかもよく成効しよく生氣ある所以のものは、その超凡にして幸田一族の血をうけ、女人ながらも宛然男子を凌ぎ、一種特得の一と癖ありて、子が自ら數々口にする如く『押しの强き』故なり。されど、こは到底纖妍たる橘子に望むべからず。加ふるに其健康また甚だ覺つかなりとも見えず。其伎倆の如きは、暫く論を重ねて言はずとするも、當局者若し眞の眼識智慮あらば、須く瀧廉太郎氏を選ぶべし。氏は三昧に入り得るの質ある人なり。

○明治音樂會第拾二回演奏會

この度よりは、ヘツスといふ人管絃樂を指揮せらるゝこととて、すべて一段の活氣を添へ、我儕如き驢馬には、口入れしむる隙間だになく、會員諸氏の益々奮ふて益々熱せらるゝに感歎するのみなり。その『君が代』をドリヤン、モードに調和し、讀本などにて、誰人も知るテニソンの守歌『スウヰート、アンド、ロー〳〵』をヴアヰオリン獨奏ものに直したるなど、樂界を益することと多かるべし。願ふは、管絃樂に小太鼓を入れ、又日本人の獨唱者を紹介せられんことなり。モリソン夫人のソロもよけれど、野卑の嫌ひあれば、トーマス女史などをも、時には聽かしめ給はりたきものなり。廿一日には皇后陛下も音樂學校に行啓あらせらるゝと聞けば、西樂界は今後愈々萬歲なるべし。萬年先生も亦勉めたる哉。

○明治美術會油繪彫刻展覽會

白馬會の近頃活動の模樣なくて、何となくうら寂しき今日此頃、明治美術會が春季展覽會を開けるもおかし。開會早々にて出品も揃はざりしが、一見驚かされしは、その所謂舊派なるものゝ色合ひが、頗る新派化せられ、昔しの暗き色、いつの間にか消えうせ居りて、凡て明るき繪具を用ひられ、頗る紫派に近づき、その筆法其畫面の深しくアムプレシヨニズムの體を帶ぶるに至れることなり。依て思ふに、我國の如く所謂山水明眉にして、水蒸氣多く、人民感想の心深き土地にありては、此の進化は寧ろ自然の趨向なるべし。

◉三宅克巳氏作の水彩畫

は一種の異彩ありて、凡て淺黄の如き色彩を土臺とし、脫凡の滋味あるところ頗るおもしろし◉殊に一言したきは、チヨーク鉛擦筆畫などのことなり。邦人由來雅致淸洒たるを愛し、土佐畫の濃厚ならんよりは、狩野一派の文人畫を趣味ありとなせば、チヨーク鉛擦筆畫など、頗る我國民の趣味嗜好に適ふものゝ如し。然るを今の洋畫家なるもの、重きを多く之れに置かず。悲むべきことなり。出品中奥山氏が『夏の夕』など此種の畫面あるを見、深く注意を同會員に寄す。

○團菊合併演劇

團十郎菊五郎の合併なりとてか、評判高かりし歌舞伎坐三月狂言も、實際は噂ほどのものならで、左程浮れ騷ぐべき値ありとも覺えず。世間の噂高きは、兩名優の合併興行にあるべけれど、こはめくら滅法の淺薄とも評すべく、我れは寧ろ兩優の合併興行なりしを悲む。見るところ、互に他の掣肘を蒙りて、兩優とも充分に其特質を發輝し得ざるが如く、『此處一と息』と思ふところに、各々『氣』を注ぎ難くてや、我儕に惜しき思ひせしめぬ。共にその單獨興行をなすに如かず◉看く老衰せるは團十郎丈なり。曾て『二人景淸』『春雨傘』に丈を見しことありしが、殆

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

んど別人の如く、此る分にて進まは、この名人を壓に逗へすも二三年を出でざるべく、團洲の特徴漸く失せんとして、頗る生氣と活動とを欠くの憾あり。されど、その弓を以て鵺をおしらひ、又菖蒲前を賜はりて、舞になる賴政の仕打ちなど、凡て悠然として麥人ぢみたるセワ〳〵しさを呈せず、落付き拂ったる樣、眞なる殿上人の源三位と思はれ、とても音羽屋などの及ぶところに非らず◉菊五郎丈は、自からその欠點を覺り、近頃己れになくて、成田屋が特有なるものを、凡て自らのものにせんとてか、頗る團十郎が『腹藝』と稱ぶを取り學ばんとするに苦心するものゝ如く、かの中幕なる『寺子屋』の『源藏』など、明に其跡を示せり。されど、まだ〳〵生々しくわざとらしくて見惡くし◉名優箇々の批評は、時を待ちて、大に試るべし。讀者いやでも待ち給はれ。

○圓朝と圓遊

圓朝子は頗る圓熟洒脫せる人物の如く、之を俳優のうちに取れば、團洲の如しと言はんよりは、寧ろ左團次の如しと言はん。故に英雄よりも寧ろ君子通人に近し。されど圓遊子に至りては、稍々覇氣を帶び、古英雄に似たる趣ありて、團洲門の種類に屬す。されば圓朝子は親むべく、圓遊子は仰ぐべしといはんか。是に於てか、圓遊の語るや、堂々の風ありて聽く人を壓しつくるが如きも、粗笨に流るゝの弊あり。圓朝子に至りては、淳々乎として敎へを垂るゝが如く、懇切にして其語るところ凡て用意周到にして、聽くもの寺院にあるの思ひあり。しかもその間自ら活力の存るありて、一たび叙のことを談じて扇を携ふるや、眞に眞劍の試合に臨めるものゝ如く、聽き終りて『老於の身、一段の談話も非常の疲勞なるべし』と感ひ歎ぜしむ。

○救世軍のブースと參謀士官

救世軍が日本に派遣せる高級士官を見るに、前の司令官大佐ライト氏といひ、副官中佐パウエル氏といひ、又新任の司令官ペリー大佐といひ、皆な共に非凡の事務家なるものゝ如く、寧ろこれ等の人を目して宗教家といふは誤れるに似たるものゝ如し。その人情機微の呼吸を心得て彼れ是れの掛け引するなど、熱信一方の鈍物などの到底企て及ばざるところなり。これより推して考ふるに、總督ブース將軍なる人も、宗教家と言はんよりは、寧ろ非常無類の事務家なるべし。近頃も本鄕の中央會堂にて、出獄人救濟所のため同軍の發起せる音樂會樣のものありしが、その廣告せる新聞の文中に『少女の獻身式あり』と書き添へられたるなど、人間の弱點をつけ込める人寄せの好文句なり。日本の參謀士官などのうちにも、仲々如才なき事務家ありと見えたり。聞けば『少女』といふも、嬰兒なりしと。

○卷煙草の賣れ口

折ありて、さる煙草屋の店頭に腰うちかけて、煙草の賣口を問ひ尋ねしことありしが、ホークは品質も仲々精撰しあり、のみ口もよけれど、ヒーローは長く賣り込みあることゝて、ホークの五倍ほどは賣れるとのことなり。純舶來の卷煙草にては、キングフヰッシャーとゴールドコイン尤も賣れ口よく、近頃天狗印の販路仲々に廣まり來り、日本卷の天狗印牡丹印などゝ舶來まがひのものとの割合は五分五分位にて、日本卷のうちなる岩谷の天狗印と千葉の牡丹印との割合は八分と二分と位なりと。

○松村介石氏の諭旨免職

諭旨免職とは、官界のことゝのみ思ひ居りしに、神田青年會の講師にて、其名も高かりし介石先生、秘密迅速の間に開かれたる理事員會の決議によりて、諭旨免職せられたりと噂す。所謂正統と稱せらるゝ辨證的福音を傳へざるためにや、將た政黨騷ぎなどに關り出せるためにや。兎も角も、介石先生は、花のお江戸の名物の一つなりしを、理事員會も。江戸の名物一つ失せらせし罪、決して少々ならず。さてはといへば、仲々に後任者はなかるべきに。

○頸ハンケチと河村淸雄氏展覽會

近頃撥に際りて見苦るしきは、藝者など少し洒れたる向きの、頸に絹ハンケチを纒ふことの、流行し來れることなり。願くばこの流行を長びかせず、良家の女に傳へ度なきものなり。一見せるのみにても胸惡るし◉河村淸雄氏の油繪展覽會は、すでに諸先輩の批評もあれば、くはしくは言はず。『龍』の圖は評判ほどに感服せず。我が尤も面白しと見しは、『梅のぼく』と、滯米中に富田鐵之助氏に贈られしといふ景色畫と、『月に秋の七草』の圖となり。殊にかの景色畫は、以太利畫派の繪色を帶びて、古色神々しきものあり。現に角『日本第一』といふも、可なるに非る乎。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

●近時の婦人問題　此春に入りて、時事新報の鼓吹につれて、都下の新聞紙にして、婦人問題を論ずるもの尠からざるに至れり。時事新報の女學論をなす事、既に十數年來の事にして、福澤氏の如きは、明六社以來、女權論を唱破す、而して死に至るまでも、之を止むるゝなかるべしと誓へりとぞ。福翁百話中の女權論數多きに次ぐに、近くは「女大學評論」と「新女大學」との著あり、四月一日以後毎週二回つゝ掲載すべしといひ、既に其公にせられたるものを見るに、蓋し、福翁が、明六社以來、不相變の男女同權論なり。此論の梗概は、余輩を見たるの上に掲載すべし。扨て又同新聞は、近く三月廿四日の社說に、「日本婦人は雜居の曉に注意すべし」と題して、徹頭徹尾、日本男子の不品行を痛罵し、雜居の曉に至りて、日本男子は其不品行の故を以て、外人より擯斥せらるべしといひ、之れは致方なけれども、扨て

　世界に類ひ稀れなる純潔無垢の日本婦人が單に無賴の男子に連添ふ爲めに併せて擯斥せらるゝは堪へ難き次第にして婦人に取りては此上もなき耻辱なる可し本來日本男子の不品行は彼等の無智無識に出でたるものとは申しながら更らに一歩を進むれは女子が腑甲斐なくして男子の放埒を恣にせしむるも其一原因と云はざるを得ず廣く世界の男女を比較して其勢力の如何を見れは柔よく剛を制して男子活殺の權は寧ろ女子に存するの場合多し諺に云ふ婦人の毛にて作れる綱はよく大象を繫ぐに足るの喩に漏れず男尊女卑の風潮滔々たる日本の社會にも隱然の勢力は却て婦人の手に在るを證するの事實少なからず左れば若しも婦人にして一旦奮發その勢力を伸張し男子と同樣の程度まで自家の位地を引上げんと決心せば之を行ふ誠に容易にして我輩の筆鋒を勞せしむるの必要なきに然るに日本の女子は卑屈無氣力にして正當の權利をさへ享くる能はず夫たる男子をして言語道斷の不品行を犯さしめて之を止むるの工夫を爲さゞるのみか甚だしきに至りては自から男子に媚ひて多妾の醜行を敢てせしめ嫉妬心なき證據として得々人に誇るものさへありと云ふ卑屈も亦甚だしからずや若しも日本の女子が自から斯く狀態に在るをも顧みず內地雜居の曉に至り西洋婦人と對等の交際を望むの心もあらんには我輩は其厚顏なるに驚かざるを得ず活潑敢爲の西洋婦人は恐らく其意氣地なきに愛想をつかして人並みの交際などは眞平御免と跳ね付くるならん我輩は日本の女子が其時に臨み始めて氣がつき俄かに狼狽する樣子を今より想像して氣の毒に堪へず敢て一言の忠告を試むる所以なり

と論ぜり。また、諸名士を訪問して、婦人問題に關する意見を聽きて、之を紙上に掲げ始めたり。鼓吹勉めたりといふべし。

△また報知新聞の田川生は、三月十八日の紙上に「本邦の女子」を憐れとだに、云ふ人なく、世界婦人中の最高位に在るものと見るべく、既に、支那朝鮮の例を以て見るも、彼等の婦人は、男子よりして尊敬せられ、輕侮せらるゝをなく、地位遙かに、日本婦人の上に在り、

　而も或は之に學問せしめんとすれは即ち曰く生意氣に爲るから厭よ多數の人は今尙ほ我婦人の位地の更に大に進歩せしむべきを知らず成るべく之を今日の儘に過さしめんとするなり夫れ其憐むべきを知て他日の進歩初めて期すべし未だ憐むべきを知らず他日の進歩期すべからず本邦婦人の位地兎角は未だ憐むべき境を脫せざるなり

と論じ、また三月廿六日の紙上にては、「女を尊ぶの念」を興起するは、今日腐敗を極めたる社會を救濟し、風敎を振作するの道なりと說き

　蓋し我邦人の女を尊ばざるや甚し、彼等の心持にては、女は男兒に伴ふ一種の附屬物なり、故に之を使ひ、之を役し、之と戲むれ、之を弄ぶは、男兒の生存に伴ふ自然の狀態にして即ち其權利なり女兒は一切を棄てゝ男兒の命に從ふべし、即ち男兒の言ひし次第、牛と爲り馬と爲り、將た犬と爲り羊と爲り、以て其用を足し其樂みを賑かしむべしと謂ふなり、更に女子を人として一人前の待遇を與へざるなり、

と慨す。

△三月廿六日の每日新聞はまた「俑を作る者は誰ぞや」と題して、收賄と蓄妾との都鄙一般に流行せるを慨し、蓄妾の弊風を論じて、

　近年此風年に行はれ中等以上の者は公然婢妾を蓄へ之を接客の席に使用し互に相誇る者あるに至る夫れ婢妾は一種の奴隷なり人權を口にする者家に女奴を蓄へ其惡影響を家族の間に波及し子孫閨族をして淫蕩墮落の禍を受けしむ之が爲めに父子の親を傷り夫婦の和を破り兒孫を墮落し家屋を傾敗する者十年以前稀有の事にして今日は到る所之を見ざるなし夫れ家族は邦國の基礎社會の根抵なり家族の和樂ある國民は能く殖民の目的を遂すべく又能く社會の健全を保ち國家の生長を爲すべし而して今日家族の狀態は之に反す是豈國運興隆の兆と言ふを得んや

と叫びて、俑を作るものは、維新の書生一躍して堂上に立てるものに歸して。其罪を唱せり。

日本新聞の如きも、時事、報知等の說に贊して、

　束髮蒸籠等が横行濶歩も難有からざる次第なれど、我女子敎育はやがて、敎育界の一大問題たるべし、

と論ぜり。此等諸新聞の女權論は、要するに、明治廿一二年以前の主意を繰返す形ありて、近年の風位欧流も以前に迫れる內地雜居とに促されたるものといふべ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

きか。

△かゝる中にも、日本主義さかを奉ずる京華日報にては、華族女學校長細川潤次郎氏が「日本女子は世界中の最好地位に在り」といふ演說筆記を掲げ、

支那朝鮮の女子の位地は女子をして卑屈に陷らしむる者なり歐米諸國の女子の位地は女子をして活潑に過ぐるの弊に陷らしむる者なり我國は幸にして女子を適當の地位に置きたり本來の美風を具へたり此地位を離るゝこと勿れ此美風を失ふこと勿れ

さて、時事、報知等の說に、全然反對の意見を發表せり。扨て、論旨は兎に角に、諸新聞が、女權論を社說として掲ぐるやうになりたるは、女子敎育の機運に乘じ來りたる兆候として見らるべく、吾人は之を賀す。地方新聞紙もまた、これよりして、女權論をなすと、ますます多かるべし。

●女學界の新時期、三月諸女學校多數の卒業生を社會に出し、新に學期を迎へて入學生を募る、この學期もまた、去年の學期に比して、一層の好景況を呈し來らんや必せり。

●學雜誌に對する世評

△女學雜誌第四百八十二號
數多き女學雜誌中一頭地を拔き嶄新と清麗さを以て推さるは此雜誌なり卷頭に海舟先生の行事あり蓋し巖本氏が親炙して立筆せし者に係る讀んで坐ろに巨人の面影を忍ぶべし其他花園隨筆と題する棄婦女史の文あり隨感あり雜錄あり
（新愛知三月十八日）、

△女學雜誌　第四百八十三號
社說にある議員收賄と其家政と題する一文は最も其妙を穿ちたり家庭雜錄其他例の如し（防長新聞三月廿三日）

△女學雜誌第四百八十三號
家庭欄の狹きは本誌に惜む處されど花園隨筆鬼面百相及び見を失へる記等温雅にして興深し（山陰新聞三月廿四日）

△女學雜誌第四百八十三號
社說には「議院の腐敗と家政」あり方今政治家の一讀を煩はしたし其他家庭、雜錄、講義、大磯だより、隨感時事皆な大に見るべし予輩は本誌が二十年一日の如く日本女風改善の爲めに盡したるの功勞を多とするもの也（土陽新聞三月廿六日）

△女學雜誌第四百八十三號
議員の收賄と家政と題し議員の腐敗を主婦內助の力に賴りて醫せんとする取む所女流必讀のものあり（鳥取新聞三月二十三日）

△女學雜誌第百八十三號
日社說、家庭、雜錄、講義、隨感、時報等何れも家庭の整理に必要なる事項を掲げ兼ねて敎育の改善に至緊なる意見を吐きつゝあり（北陸政論三月二十五日）

▲女學雜誌第百八十三號
社說の「議員の收賄と其家政」は「贊否投票の掛引すべて黃金の勢にて何事も詮ずる所錢と云ふものに落ちざるはなしたとひ三四正義の士ありとも之を如何ともする事能はず但だ茫然として手の着け樣なきを嘆つ」てふ或る代議士の言を引き議院內の醜聞想察の外にあることを說きそが一原因を家庭の虛榮に歸し主婦たるものを戒めて曰く富によりて信用を得ず節操によりて名を擧るやうに心得其人一時の所得に目もくれず又一時の貧乏に驚きもせぬやうに內助することあらば如何に當代薄弱の男子なりとも罪に陷いるの場合は大抵消滅すべしと思ふに人の弱點を看破せるもの亦一理ある可し有美狂生の「鬼面百相」は奇警の文字に富み三輪花影の「雪」は好箇の韻文なり（中國民報三月廿一日）

●海外婦女渡航　の手續寬大となる。これより醜業婦の出稼其數を加ふべけれども、同時に、移民事業の上に、偉大なる好結果を來すべし。

◉女學家庭文壇雜題　（本誌〆切まで）

◉夫人の素顏〇稅所篤子のつゞき　報知新聞連載
◉家庭の栞　家事問答〇簡易料理〇不良水を良水となす法〇注意三則〇日本料理　大阪每日新聞連載
◉家庭の爲　海事新聞連載
◉瀧の川學園を訪ふ（木下生）　每日新聞三月廿四五日、
◉家庭實務　國民新聞連載
◉井上通女　讀賣新聞三月三十日以後
◉本邦の女子　報知新聞三月十九日
◉女を尊ぶの念　同　三月廿六日
◉価を作る者は誰ぞや（落安、收助）　每日新聞三月廿六日
◉日本婦人は雜居の曉に注意すべし　時事新報三月二十四日
◉兒童問答　讀賣新聞三月廿七日
◉日本女子は世界中の最好地位に在り（細川潤次郎演說）　京華日報三月廿四日
◉女大學評論（福澤諭吉）第四回　時事新報四月一日
◉婦人問題の勃興　時事新報三月二十八日
◉女子敎育の現狀　人民三月廿六日
◉支那文學に現はれたる女性（笹川臨風）　太陽第五卷第七號
◉女性に於ける宗教的感化（入澤捬泉）　基督教新聞第八百十三號

時　報

◎學　事

●大阪市立高等女學校第十二回卒業式　は三月廿八日執行、卒業生、本科九十四名技藝科四十五名、計百三十九名なり。

●東京女學館第九回卒業式　は三月廿六日執行、卒業生は専門科三名、高等女學科十名同選科四名、計十七名なり。

●東京女子學院卒業式　は三月卅日執行、卒業生は全科四名、英語中學科四名なり。

●東京女子職業學校第十三回卒業式　は三月卅日執行、卒業生、裁縫教員養成科十一名、裁縫甲科三十三名、刺繍甲科十名、編物甲科九名、圖畫甲科四名、造花甲科十名、裁縫乙科四十七名、刺繍乙科八名、造花乙科六名、總計百十四名なり。

●栃木縣高等女學校卒業式　は三月廿五日執行、卒業生本科三十一名、專修科十八名、補習科六名なり。

●靜岡女學校卒業式　は三月廿八日執行、卒業生本科九名、專修科六名なり。

●讃岐丸龜市の女學校創設　丸龜市の有力家等は同市に高等女學校なきを憂へて今般私立裁縫女學校を設けんとの計畫を立て、市內有志者の義醵金を募集しつゝあるが、取敢ず、同市富屋町妙法寺を以て校舍に充て、四月中旬より開校の豫定なりといふ。

●毛利高等女學校新築　山口縣吉敷郡下宇野令村字中用屋へ新築せらるゝ毛利高等女學校敷地は田畑合計反別六反六畝十四歩にて地價百四十五圓三十錢此土地買入代金千四百二十六圓六十九錢九厘なり其の外道路敷地は二畝六歩なり又校舍の建坪數は大略三百餘坪なりと目下にては小屋掛けをなして急々工事に着手せり全校落成迄凡そ一万餘圓の豫算見込なりと云ふ

●神戸市女學校の現況　神戸市には官公設の女學校なきより高等女學校設置の問題屢々縣會の議に上りたるも未だ決定の場合に至らず今同市に於ける私設女學校の現況は官廳の許可を得たるものは神戸女學院、松蔭女學校、親和女學校の三校にして神戸女學院の教員は十一名現在生徒百六名、松蔭女學校の教員十三名、生徒五十四名親和女學校の教員は三名にして生徒は百四名なり。

●横濱女學校　先般設立したる同校は既に諸般の準備整ひ各々専門の教員を聘し懇切に教授しつゝあり又特別講師として東京裁縫女學校長渡邊辰五郎氏毎月數回出張すべし。

●愛媛縣會と高等女學校　愛媛縣知事は、縣下に三高等女學校を設け、松山市に縣立を設き、今治、宇和島の二町に代用學校を設くの原案を縣會に附せしに議員の地方的感情の結果遂に、三校とも代用校となす事に可決したるが、これにては、高等女學校令に抵觸するの虞あるを以て、知事は原案執行を斷すべしとの說あり。

●淑德女學校　東京小石川區表町八十八番地に有り。入學者資格及試驗は正科は小學高等科撰科は尋常科卒業の證書を有する者、若くは此等に該當すべき學力を有するものに限る。但し證書を所持せざるものは適宜試驗の上入學を許す。在學年限、正科三年撰科三年、費用、束修八十錢、授業料一ヶ月正科一圓、撰科八十錢、寄宿五圓、本校は國風に基き佛教に據り、女子の妙性淑德を薫陶し普通學科及び實業を教授す。入學期限四月上旬

●跡見女學校　小石川區柳町二十七番地に在り、入學者資格及試驗、高等小學卒業のもの若くは是れと同等以上の學力を有するものに限り、無試驗本科に入學を許す、但し豫科は學力を問はず入學を許す在學年限本科四年豫科四年、費用、束修一圓五十錢寄宿料六圓五十錢授業料は各科目に應じ一ヶ月二十五錢以上一圓以下。入學期限四月五日

●香蘭女學校　麻布區長坂町に在り。入學者資格は、豫科は尋常小學科卒業の者なり。豫科三年。中學科五年、別に尋常小學科あり。選科として、英語、邦語、諸般の手藝を授く。入學期限四月十一日。

◉女子學院　麴町區上二番町に在り。入學に關することは校長の指揮に依り或は履歴に依て許否又は等級を定む、在學年限、豫科四年本科四年高等科二年、費用束修二圓授業料一ヶ月一圓五十錢寄宿費四圓、本校は專ら英、和二國語に重きを置き成業後家政を擧る傍ら翻譯通譯及教育に從事するとを得又和洋家政經濟も亦特色とする所なり。入學期限四月十日迄。

●靜修女學校　麴町區九番町に在り、入學者資格及試驗、高等小學卒業者は無試驗普通科第二年に其の他は適宜試驗の上入學を許す、在學年限普通科四年專修科二年、費用、授業料一ヶ月一圓五十錢撰科一圓寄宿料四圓五十錢入學期限四月十日迄。

◎會　合

●帝國婦人協會創設　下田歌子を首長とし、永島豕野子、同八百子、菅川英子、岩波澄子、久松繁子等の諸婦人を發起人とし近衛公同夫人、土方伯同夫人、東久世伯、千家男、鴻雪爪、島地默雷同夫人、織田得能、三浦安、片岡健吉、江原素六、栗原亮一、鈴木重遠、河野廣中、加藤時次郎、森清右衛門、高橋與市諸氏の賛成を得麴町區元園町二丁目に題號の如き會を設け四月十日頃、其發會式を開く由、其設立の告白に曰く。

帝國婦人協會起る

◎本會は日本帝國婦人をして各其德を高め其智を進め共同扶植以て本分を全うせしむる目的なり

◎本會は其目的を貫徹せん爲め敎育、文學、工藝、商業救恤の五門を開き先つ實踐女學校、女子工藝學校、慈善女學校を創始し併せて下婢養成所を置く

◎本會は其目的を同うするの婦人には地位資格の如何を問はず何人たりとも勉て其交友たらんとす

◎本會は公益の爲め團体を作り又は各種の事業を計畫せらるゝ婦人には勉めて聲援を與へんとす

◎本會は婦人の團体よりして請求せらるゝことに對し苟も有益なりと認むるときは其請求に應じて相當の義務を咨ます

●東京市夫人慈善會の總會　東京市夫人慈善會に於ては三月廿三日午後帝國ホテルに總會を開き、會長副會長議定員の選擧を行ひしに左記の如く當選せし趣なり開會の場所日附等確定には至らざりしも、會場は神田區三崎町東京座にして、四月十日前後に開く豫定なりと。當時會員は八百名なれども、昨今頻々入會の申込あり。又た同會に於ても成るべく會員の多きを望むに付、各自勸誘しつゝあり。就て入會希望者は市廳內慈善會掛に申込み、直に會員證を附與されて會員となりたる上は、一ヶ年に金三圓以上若くは同價格以上の物品を寄附する譯にて、會員に限り慈善會開場中は演劇音樂其他の興行物等上等切符を贈呈する筈なりと云ふ。

議定員（イロハ順）

會長澁澤榮一氏夫人、副會長松田秀雄氏夫人、男爵岩崎彌之助氏夫人、侯爵池田章政氏夫人、男爵伊東巳代治氏夫人、侯爵蜂須賀茂韶氏夫人、穗積陳重氏夫人、穗積八東氏夫人、富田鐵之助氏夫人、大倉喜八郎氏夫人、奧三郎兵衛氏夫人、渡邊洪基氏夫人、金澤三右衛門氏夫人、田所美治氏夫人、田中平八氏夫人 梅浦精一氏夫人、浦田治平氏夫人、男爵楠本正隆氏夫人、安田善次郎氏夫人、山田忠兵衛氏夫人、子爵松平定敎氏夫人、朝倉外茂鐵氏夫人、淺野總一郎氏夫人 坂谷芳郎氏夫人、佐藤正興氏夫人、坂本彭之助氏夫人、若谷市郎右衛門氏夫人 三井三郎助氏夫人、三井高保氏夫人、男爵千家尊福氏夫人、

●大阪婦人慈善會　五月第一土曜日より三日間堂島濱通りなる府知事官舍に於て、第十二回婦人慈善市を開き、同所松本重太郎氏の宅を美術品陳列所となし、山中吉郎兵衛氏所有の美術品及び和洋美人畵を陳列するよし。

●岡山基督教徒婦人會　岡山基督教徒婦人會は今后毎月一回專門の諸大家に女子に必要なる講話を請ふことゝなし三月十三日は午后七時より東中山下の基督教會堂にて其第一會を催し醫學部主事管之芳氏の看護に關する有益なる講話ありしと。

●盛岡市婦人會　同會は三月十九日盛岡高等小學校内に例會を開き、參會者七十餘名席上贊助員梶原氏の內助に關する演說岩片氏の貞女烈女の碑に關する演說及び安井氏の「トラホーム」の傳染を防く方法の演說等あり。

●慈惠醫院の婦人服飾展覽會　東京慈惠醫院は今回 皇后陛下特別の思召を以て御下賜金御增加あり年々五千圓となりしを以て四月一日より施療患者の數を增加すると同時に尙一層慈惠の主旨を擴張する爲め來る五月を以て婦人服飾展覽會（日本中古より今日に至るまでの婦人の衣服頭髮の飾具等）を同院內に於て催し皇后陛下の行啓をも仰ぐ筈にて多くの服飾品を集收せりと

◎人事

●孝女の受賞　神奈川縣三浦郡浦郷村田中六右衛門妻たみは同村平民臼木善殴の三女にして明治十年六左衛門に嫁し長女たけ（二十二）二男兵藏（十八）を儲けたるが家計困難の間に備役して姑を葬り病夫を介抱し子女を發育し多年怠りなきを以て今般神奈川縣知事より左の賞狀と金圓を下賜せらる

相摸國三浦郡浦郷村田中六右衛門妻　たみ

貧性溫良善く姑に孝に夫に事ふ夫中風を患へ體軀自由ならず今尙病蓐にあり姑亦眼疾に罹り明を失ひ尋て老衰に因り終に死亡し生計益々窮困に陷るも意更に撓まず晝は他家に傭はれ僅に其得る所を以て米鹽湯藥の資に供し夜は專ら病床に侍し看護に力を竭し傍ら子女を撫育し奉養扶掖件らざる所なく一意承歡十八年一日の如し鄕閭咸な其至行を稱す洵に奇特とす仍て爲其賞金五圓下賜候事

●下婢受賞　尾州中島郡中島三輪與右衛門の妹カマ（三十八）は、同郡串作の佐藤利平方に雇れて、二十年間主家を助けて、忠勤を抽んでたるとにて、愛知縣知事より金一圓を賞與したり、

●美談一束　婦人の鑑　靜岡縣駿東郡北郷村小野次郎吉の妻ナカ（十九）（京華日報三月四日）○婦女の龜鑑　山口縣熊毛郡小池留造の妻キク（防長新聞三月十七日）○少女の名譽、徳島縣板野郡松茂村樫原宮二郎の女オトノ（十）の機業老練（徳島毎日新聞三月廿六日）○婦人の龜鑑　青森縣三戸郡五戸村屋號又市の妻チヨ（陸奧日報三月廿三日）○貞婦　徳島縣板東嘉平妻ミツ（東京朝日新聞三月廿五日）○薄幸の貞婦　函館鶴岡町川上七郎娘ソノ（三十四）（國民新聞三月二十五日）

●妙玉孃　朝鮮朴泳孝の女妙玉孃は長崎市活水女學校に居りて、外國婦人の保護を受居りたるが、此度都合により、福岡市の福岡英和女學校へ轉學したり。

◎雜事

○婦女の海外渡航　嘗て醜業婦の海外渡航に關して盛に輿論の攻擊を受けたる當時我外務省の方針は婦人全体の海外渡航に付て嚴重なる取締法を設け各府縣廳に於て容易に婦人の海外旅券を下附せざりしが近日此等の取締法を解き大に婦人の海外渡航を奬勵するの方針を取れり蓋し布哇の如き日本勞働者の多數ある地方には婦人の數の少なきが爲め却て非常の弊害を生ずる傾向あるを以て此等地方には從來契約勞働者として渡航するもの多く同伴婦人の數も該地の情況により二割五分の制限を付せられたる事あるを以て重もに此等の欠乏を補ふが爲め自由渡航の方法に以て婦人渡航を奬勵するに至りたるなりと此事たる日本移民將來の結果に於て少からぬ關係を生出すべしと云ふ

中學界之新旗幟

學窓餘談

第二卷 第貳號目次 三月廿日發行

確乎たる志望は大人を造る……東海志士
人世の兩意義……岡田哲藏
文明社界の禮法……城西學士
宮古島物語(新體詩)……岩野咆鳴
漢文助字用法と文話……梅園居士
二宮尊德翁の幼時……材上濁涙
過去一年世界大事記……靜翠子
ニカラガ運河……松島剛
動物の構造……理學士 五島清次郎
魚の話……北原多作
初等數學……長澤龜之助
英語文粹……パチエロル、オブフイロソフイー 舟橋雄
和文英譯……パチエロル、オブフイロソフイー 藪内敬之助
帝國憲法談……王道生
電話……工學士 中原岩三郎

小説要塞砲兵……前田曙山
家庭教育……向幾女史
ニコライ氏傳……神學士 瀬沼恪三郎
偶感漫筆……默笑道人
速記術講話……日本速記術發明者 田鎖綱紀
●青年詞藻 新刊圖書目錄●入學試驗問題●内外彙報●世事日記

實價

一冊 金十五錢
六冊前金 八十七錢
十二冊前金 一圓六十八錢
郵税一冊金一錢五厘宛
郵券代用一割增
爲換は東京江戸橋本局宛

挿畫

勝海舟翁●京北中學校●同校長井上圓了君●ニカラガ運河(二圖)●東京電話交換局附近電線輻輳の圖●植物標本(ベコニア)(中村不折畫)

●學窓餘談は第一卷第一號より取揃へ御註文に應ず●又合本御入用の向きは製本料廿錢添附雜誌御送付あらば調製可仕候

發行所 東京日本橋區通四丁目 (電話本局五十一番) 春陽堂

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY